

ふくやま文化財 全域マップ

福山市内の文化財を多くの方に知ってもらうため、中央・南部・西部・東部・北東・北西の6エリアに分けて紹介しています。ご自宅の近くや、普段の散歩道など、意外と身近なところにあるかもしれません。ぜひ活用ください。



吉備津神社本殿(国)、神楽殿(県)
拜殿、下随神門、大鳥居、六角燈籠
一宮(嵯山慈俊伝説地)(国)

堂々川1~6番砂留(登)
蘆ヶ迫砂留(登)
内広砂留(登)

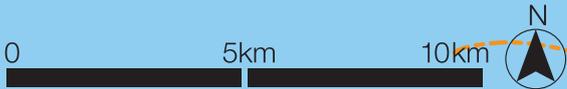
福山城伏見櫓(国)、筋鉄御門(国)、鐘櫓
旧内藤家長屋門
福山城跡(国)
福山城三之丸西御門櫓台跡
福山城三之丸北御門外樹石壘跡
福山城跡小丸山
福山市福寿会館(登)

安国寺釈迦堂(国)
沼名前神社能舞台(国)、鳥居(県)、石とうろう
太田家住宅(国)、朝宗亭(国)
弁天島塔婆(九層石塔婆)(県)
鞆の津の商家
岡本家長屋門
朝鮮通信使遺跡鞆福禪寺境内(国)
平賀源内生祠(県)
鞆七郎落遺跡(県)
備後安国寺(県)
大可島城跡
鞆城跡
安国寺のソテツ(県)
いろは丸展示館(登)
南禅坊(登)

凡例

- 有形文化財：建造物
- ◎ 記念物：史跡
- 記念物：名勝
- 記念物：天然記念物
- 登録有形文化財(建造物)

※文化財名称の後ろは
(国)：国指定の文化財
(県)：県指定の文化財
(登)：登録有形文化財
その他は市指定の文化財



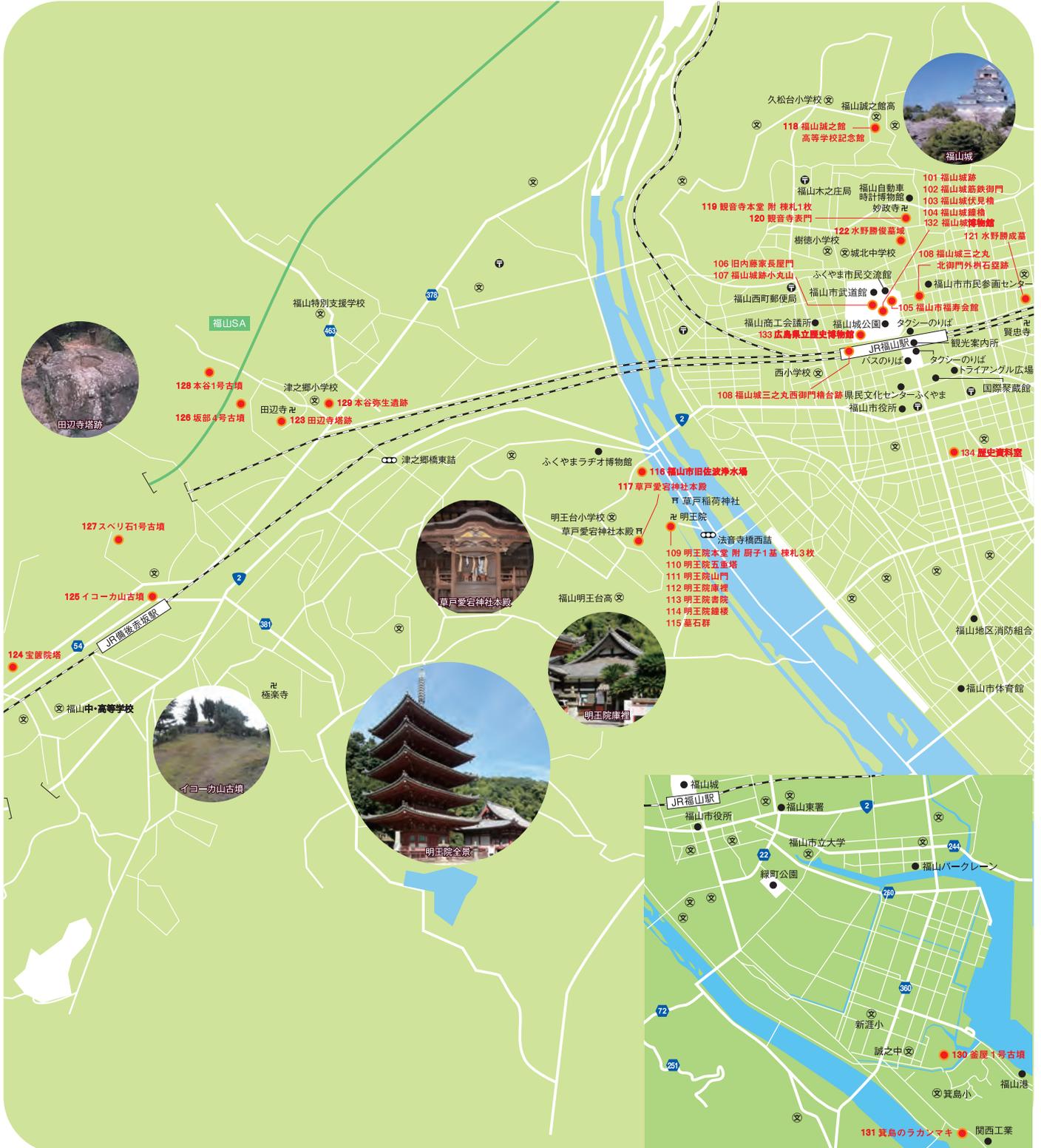
ちゅうおう

中央エリア

芦田川の流れによって形成されたデルタ地帯は、中世に明王院の門前町である草戸千軒町遺跡が繁栄していました。草戸千軒町遺跡は、現在の芦田川の中州に埋没していますが、日本の中世考古学の先駆けとなった記念碑的遺跡です。

江戸時代になると初代福山藩主水野勝成によって福山城が築城され、備後の政治経済の中心は現在の

市街地に移ります。勝成は上水道を敷設し、寺院を城下に移すなど、先進的な都市計画によって城下町は形成されていきます。また、現在の川口町、多治米町、曙町などの干拓が進み、福山デルタの大半は江戸時代に形作られました。



101 福山城跡



指定種別：国史跡
所在地：丸之内
見学情報 **WC**
JR 福山駅から 300m

備後 10 万石の領主として大和郡山より転封してきた水野勝成が構築した近世城郭で、1622（元和 8）年 8 月に竣工しました。東、南、西は二重の堀をめぐらし、北は吉津川を通し、小丸山（市史跡）、天神山（松山）、永徳寺山が天然の防壁となっていました。1945（昭和 20）年の空襲でほとんど焼失しましたが、天守閣は 1966（昭和 41）年に再建され、福山城博物館になっています。

102 福山城伏見櫓



指定種別：国重要文化財
所在地：丸之内
見学情報
限定公開 要問い合わせ
福山市教育委員会文化財課
☎(084)928-1278

福山城築城にあたり 1622（元和 8）年に将軍徳川秀忠より京都・伏見城の一部を拝領し、移築されたと伝えられています。1954（昭和 29）年の解体修理の際、梁の陰刻に「松ノ丸ノ東やぐら」とあるのが発見され、移築の伝承が明らかになりました。慶長年間（1596～1615）のすぐれた建築様式を残しており、伏見城から移築された遺構としてもきわめて価値の高いものです。

103 福山城筋鉄御門



指定種別：国重要文化財
所在地：丸之内
見学情報
上層の内部見学はできません。

福山城本丸の正門で、伏見櫓と共に伏見城から移築したものとわれています。下層の各柱には根巻き金具を付け四隅に筋金具を打ち、鏡柱の見付けと見込みに大小の乳金具を打ち付けています。門扉は内開き二枚建てで 12 条の筋鉄を釘打ちし、乳金具を飾っています。上層は正面左端に出入口を設け、内部の床は拭板敷きになっています。

104 福山城鐘櫓



指定種別：市重要文化財
所在地：丸之内
見学情報
内部見学はできません。

築城当時の福山城絵図面にも描かれている建物で、上層にある鐘は城下や近隣の村々に“時の鐘”を告げ、緊急時には城下の武士を召集する太鼓も備えていました。明治時代以降は荒廃していましたが、1979（昭和 54）年に、屋根の銅板葺きを除いて元の姿に復元されました。城地内に鐘櫓が所在するのは全国的に珍しい例といえます。

105 福山市福寿会館



登録種別：国登録有形文化財
所在地：丸之内
見学情報
JR 福山駅から約 450m
見学・貸館は福寿会館事務所
☎(084)923-1516 に連絡

「経節王」といわれた安部和助が別荘として昭和初期に建築した建物です。洋館・本館・西茶室・南茶室・西蔵・東蔵の 6 棟が国登録有形文化財で、福山城天守閣を借景としてみごとな庭園が広がります。木造一部 2 階建の洋館は、急勾配の瓦葺き切妻屋根にモルタル塗りの外壁で、ヴェネチアルネサンス風の疑似窓装飾や柱の装飾などが特徴的です。

106 旧内藤家長屋門



指定種別：市重要文化財
所在地：丸之内
見学情報
JR 福山駅から約 400m

福山城の西外堀に面した場所にあった内藤家の長屋門で、1976（昭和 51）年に現在地に移築されました。長屋門は中央に入口の引戸を設け、東側に二間、西側に一間と土間があり、使用人の住居として使用されていました。城下町にあった藩政時代当時の武家屋敷を偲ばせる長屋門として貴重なものです。

107 福山城跡小丸山



指定種別：市史跡
所在地：丸之内

福山城は東、南、西に二重の堀をめぐらせていましたが、北側には人工的な防護策施設はなく、小丸山・天神山・永徳寺山が天然の防壁となっていました。小丸山・天神山の北側は、1868（慶応 4）年の長州軍による福山城攻撃に備えて胸壁が築かれました。現在、小丸山は先人の森と呼ばれ、水野勝成、江木鱒水などの碑が建っています。

108 福山城三之丸西御門櫓台跡・三之丸北御門外柵石壁跡



指定種別：市史跡
所在地：三之丸町・丸之内

（北御門外柵石壁跡）

福山城は、明治時代に三之丸に福山駅が作られたこともあり、当時の石垣が現在の市街地地下に残っていることも多く、広島県立歴史博物館の南側、鉄道高架下に残る櫓台は、1971（昭和 46）年新幹線工事に伴う発掘調査後、原位置に保存されたものです。また、北御門東側に接する外柵の石垣は、城郭の配置や規模を知る上で重要な遺跡です。

109 明王院本堂

みょうおういんほんどう



指定種別：国宝
所在地：草戸町
見学情報 **P** **WC**
JR 福山駅から約2km
内部見学はできません。

明王院は現在真言宗大覚寺派ですが、もとは常福寺といい律宗の寺院で、807(大同2)年弘法大師の開基と伝えられ、江戸時代に藩主が城下にあった明王院を移転合併しました。1962・63(昭和37・38)年に実施された解体修理により、鎌倉時代の1321(元応3)年の墨書が発見され、瀬戸内海地域では最も古い建物の一つとして貴重なものです。厨子は春日厨子で扉の内側に蓮を描いた美しいもので、木造十一面観音立像(国重文)を収めています。

110 明王院五重塔



指定種別：国宝
所在地：草戸町
見学情報
内部見学はできません。

伏鉢の銘によると、1348(貞和4)年に一文勤進の小資を積んで造られた南北朝時代を代表する建築で、全国屈指の古さを誇っています。内部は精麗な壁画と文様があり、特に四方の壁画に描かれた真言八祖行状図、四天柱の金剛界三十七尊、長押(なげし)・天井などには唐草文・花鳥・飛天などが描かれ、当初の彩色をこれほどよく残した塔は他に類例がなく注目されます。

111 明王院山門

さんもん



指定種別：県重要文化財
所在地：草戸町

1614(慶長19)年の再建ですが、その創建はさらにさかのぼると思われます。現在の山門の建築材は新旧二様の材料に分かれ、建物上部の斗拱・軒などは新様で、旧様は軸部の柱・腰長押・台輪などに見られ、室町様式の木割を残す雄大で豪壮な門です。なお、降棟に籠頭瓦を乗せており、鞆町安国寺釈迦堂の屋根の瓦よりやや小形で珍しいものです。

112 明王院庫裏

くり



指定種別：県重要文化財
所在地：草戸町
見学情報
内部見学はできません。

書院とともに水野勝成によって再建されたものと伝えられ、建物にその痕跡が認められます。小屋組は古式で規模も雄大で、書院形式の初期の技法をとっています。特に玄関や板敷き広間の天井は小屋組を露出させ、淡彩の山水・花鳥・動物を襖に描くなど江戸時代初期の風格を示しています。1963(昭和38)年に書院とともに解体修理されました。北側にある護摩堂は市重要文化財に指定されています。

113 明王院書院



指定種別：県重要文化財
所在地：草戸町
見学情報
内部見学はできません。

小屋組は古式で手法も古く、1間ごとに柱を建てた書院形式初期の技法を用いた江戸時代初期の建築です。建物の平面が田の字に区切られた4部屋からなり、回りを広縁と廊下で取り囲んでいます。北側の8畳は貴賓の間で、床・棚・付書院を備えており、1656(明暦2)年に徳川家光の位牌堂に転用されましたが、1963(昭和38)年の解体修理で元の姿に復元されました。

114 明王院鐘楼

しょうろう



指定種別：市重要文化財
所在地：草戸町

面取り角柱を方形の礎石上で内側に傾斜をつけて建てたいわゆる四方転びの建て方で、特に各柱を内側に弯曲させているのが特徴です。建立は棟札により1647(正保4)年福山初代藩主水野勝成隠居後の宗休の建立とわかり、鐘は1657(明暦3)年福山3代藩主水野勝貞の寄進によるものです。江戸時代初期の雄健な手法を示す建造物です。

115 墓石群



指定種別：市重要文化財
所在地：草戸町
(明王院境内)

1930(昭和5)年の芦田川改修中に法音寺橋付近から出土した五輪塔・宝塔・板碑・宝篋印塔を移したものです。五輪塔は小型のものが多く、宝篋印塔は隅飾(すみかざり)突起が直立する古式のものもあり、板碑は一石五輪塔型のもので、鎌倉時代から室町時代のものと考えられます。

116 福山市旧佐波浄水場

さば



登録種別：国登録有形文化財
登録建造物：配水池・浄水井
上屋・門
所在地：佐波町
見学情報 **P**
開場日時/常時、入場料/無料
経路/国道2号神島橋西詰めより
明王台団地方面へ約530m坂道を
登る。

1925(大正14)年9月に竣工した近代的浄水場です。1916(大正5)年に市制施行した福山市は、これまで度々水不足に悩まされた経験から、新しい上水道の建設が悲願となっていました。この上水道は、福山市で初の近代的浄水場として建設され、人口増加を遂げていた福山市が近代都市へ発展するための基礎となりました。現在は、佐波城山公園として一般に公開されています。

117 草戸愛宕神社本殿

くさどあたごじんじや



指定種別：市重要文化財
所在地：草戸町
見学情報
JR 福山駅から約 2km
内部見学はできません。

1628 (寛永 5) 年創建の愛宕神社は、明王院裏山に鎮座する同寺の鎮守社でしたが、明治の神仏分離により現在は草戸稲荷神社に属しています。本殿は覆屋内に納められており、宝形造の前面に縦向拝（すがるこはい）があり、唐破風（からはふ）付、桧皮葺（ひわだぶき）の複雑な屋根の小社です。部材が精巧な意匠となっており、江戸時代初期の趣をよく残しています。

118 福山誠之館高等学校記念館

ふくやませいしかんこうとうがっこうきねんかん



登録種別：国登録有形文化財
所在地：木之庄町
見学情報
JR 福山駅から約 1.4km
内部見学はできません。

1855 (安政 2) 年福山藩の藩校として西町道三口 (現ローズコム付近) に開校された時の玄関部分と 1933 (昭和 8) 年に三吉町 (現 県合同庁舎敷地) に移築された時に増築された主屋とを組み合わせたものです。唐破風の玄関と入母屋造りの主屋が巧みに融合しており、当時の造形の規範となるものです。1969 (昭和 44) 年に現在地へ再度移築されました。

119・120 観音寺本堂 / 観音寺表門



指定種別：県重要文化財
所在地：北吉津町
見学情報 **P**
JR 福山駅から約 600m
内部見学はできません。

本堂は、福山城の築城に際し、城郭の東北端、長方向の鬼門守護のために建立されたと推定される寺院で、1651 (慶安 4) 年建築の棟札があります。和洋・唐様・天竺様の手法が用いられた折衷様式の建築です。装飾手法は桃山時代の建築装飾の流れを引いており、県内に残存する近世唯一の本格的な密教寺院の本堂です。

表門は、四脚門、切妻造、本瓦葺で、本堂と同じ時期に建てられたと考えられます。妻飾りや柱の装飾には丁寧な彫刻が施されており、桃山建築の遺風がうかがわれるなどの特色がみられます。

121 水野勝成墓

みずのかつなりぼ



指定種別：県史跡
所在地：若松町 (賢忠寺境内)
見学情報
JR 福山駅から約 800m

水野家墓地は賢忠寺の北側にあり、勝成のほか父忠重、三代勝貞、四代勝隆などの墓があります。福山藩の初代藩主となった水野勝成は、福山城の築城、新田開発、治水事業、神社仏閣の整備など積極的に領内の治政にあたりました。1639 (寛永 16) 年家督を勝俊に譲り、1651 (慶安 4) 年に 88 才で死去しました。墓には高さ 5.1m の巨大な五輪塔が建てられています。

122 水野勝俊墓

みずのかつとしほいき



指定種別：市史跡
所在地：北吉津町
(妙政寺墓地)
見学情報
JR 福山駅から約 1km

勝俊は福山藩二代藩主で、1598 (慶長 3) 年備中国成羽に生まれ、1639 (寛永 16) 年に 42 才で家督を相続します。勝成の事業を継承して領国経営の基礎である土木普請を着々と進め、1655 (承応 4) 年 58 才で死去します。勝俊は日蓮宗に帰依し、妙政寺の大檀越になっており、妙政寺に葬られました。墓は巨大な五輪塔で、墓前には七人の殉死者の墓が並んでいます。

123 田辺寺塔跡

てんべいじとうあと



指定種別：県史跡
所在地：津之郷町津之郷
(田辺寺境内)
見学情報
JR 備後赤坂駅から約 2km

南に張りだした低丘陵上に位置し、現在の田辺寺の南に接する畑から多量の古瓦類とともに九輪、風鐸 (県重文) などが出土したことから、塔跡があったと推定されています。中心礎石は田辺寺境内に移されています。伝承では 721 (養老 5) 年開基の和光寺跡と伝えられており、出土した軒丸瓦、軒平瓦は平安時代の特徴を示しています。

124 宝篋印塔

ほうきょういんとう



指定種別：市重要文化財
所在地：赤坂町
(赤坂八幡宮境内)

高さ 2.35m の花崗岩製で、塔の基盤には四面に蓮の花をかたどった格狭間 (こうざま) が刻まれ、塔身には梵字 (ぼんじ) のようなものが薄肉で彫られています。相輪の形状と全体の均整が程よく整い、形の美しい塔です。銘はありませんが、南北朝時代の作と考えられます。

125 イコーカ山古墳



指定種別：市史跡
所在地：赤坂町
見学情報
JR 備後赤坂駅から約 400m

赤坂の平野部の北縁部、津之郷町加屋から南に延びる丘陵の先端部に造られた直径約 10m の円墳で、墳丘には円筒埴輪を二重にめぐらせています。内部主体は未調査のため不明です。かつては南西に続く丘陵に 4 基からなる池下山古墳群がありました。古墳の西裾には室町時代と考えられる宝篋印塔が祀られています。

126 さかべ 坂部4号古墳



指定種別：市史跡
所在地：津之郷町津之郷

津之郷の平野部北側、南に延びる丘陵には平野を見おろす形で、数多くの古墳があります。坂部には4基の古墳が確認されていますが、いずれも横穴式石室を有する後期古墳です。この古墳の内部主体は花崗岩を使用した全長 8.13m、奥壁部幅 1.64m、高さ 1.3mの無袖の横穴式石室です。側石が天井部に近づくに従って狭くなる持ち送り積みという石積みとなっているのが特長です。

127 いわ スベリ石1号古墳



指定種別：市史跡
所在地：赤坂町

津之郷町本谷・坂部古墳群より西の丘陵に連なる古墳群の中の1基です。墳丘は直径 13m、高さ 5mの円墳で、内部主体は花崗岩を使用した玄室長 5.5m、高さ 2.5m、奥壁部幅 2.0m、羨道長 4.0m、幅 1.5m、高さ 1.3mの片袖式横穴式石室です。津之郷・赤坂周辺では最大級の規模を有する後期古墳です。

128 ほんだに 本谷1号古墳



指定種別：市史跡
所在地：津之郷町津之郷

津之郷町本谷の丘陵には、横穴式石室を有する後期古墳が6基確認されており、この古墳はその中の1基です。墳丘は封土を失い形や規模は不明です。内部主体は花崗岩を使用した全長 8.85m、奥壁部幅 1.99m、高さ 2.3mの無袖の横穴式石室です。奥壁は一枚石で、側壁は持ち送りとなっており、銀環 1、須恵器、勾玉 3 が出土しています。

129 本谷弥生遺跡



指定種別：市史跡
所在地：津之郷町津之郷

津之郷の沖積平野の北辺部に位置し、かつてはこの付近まで海が湾入していたと考えられます。戦前に津之郷小学校校門脇に防火用池を造成していたところ、中国新の王莽の時代に鑄造された貨泉（市重文）が出土しました。その後の調査でも、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器が出土しており、長い期間にわたり大規模な集落が形成されていたことが考えられます。

130 かまや 釜屋1号古墳



指定種別：市史跡
所在地：箕島町釜屋

芦田川河口東側、標高約 58mの茶山にあった古墳群の一つです。石材採取のため奥壁、側石の一部、天井石 1 枚だけが残っており、墳丘は墳形・規模ともに不明です。内部主体は花崗岩を使用した南西に開口する奥壁幅 2.3 m、奥行 4.05mの横穴式石室です。出土遺物には単鳳環頭柄頭（市重文）があり、この地域の盟主的人物を葬った後期古墳と考えられます。

131 みのしま 箕島のラカンマキ



指定種別：市天然記念物
所在地：箕島町

ラカンマキはマキ科マキ属の常緑高木で、目通り周囲 3.3m、樹高約 18mの巨木で、地上 3.5m付近で 3 本に分岐しており、樹勢は旺盛で推定樹齢 400 年といわれ、地域の人々の目じるしとして親しまれています。

132 福山城博物館



所在地：丸之内一丁目8番

見学情報 WC

開館時間／9:00～17:00（入館は 16:30 まで）、休館日／月曜日（祝・休日の場合は翌日）・年末、観覧料 200 円（160 円）高校生以下無料 ※（ ）内は 20 名以上の団体 ※特別展観覧料は別途 ☎(084)922-2117

福山城天守閣が再建される際に、生涯教育の場として城内に設置された博物館です。福山旧市域の原始・古代・中世の遺跡からの出土品や、福山歴代藩主の水野家・阿部家に関する書画・甲冑等を展示しています。近世からスタートし、階を登るごとに徐々に時代が古くなるという構成で展示しており、福山に関する歴史や文化をたどりながら紹介しています。

133 心くやま草戸千軒ミュージアム（広島県立歴史博物館）



所在地：西町二丁目4番1号

見学情報 P WC 輪

開館時間／9:00～17:00（入館は 16:30 まで）、休館日／月曜日（祝・休日の場合は開館）・年末年始、入館料／一般 290 円（220 円）、大学生 210 円（160 円）、高校生まで無料、※（ ）内は 20 名以上の団体、※企画展・特別展の観覧料は別に定める。 ☎(084)931-2513

中世の港町であった草戸千軒町遺跡を中心に、瀬戸内の交通・交易及び民衆生活に視点を当てた活動をしています。なかでも、草戸千軒の町並みを実物大で復元した展示は全国的にもユニークで、その周囲には国重要文化財の指定品を中心に、草戸千軒町遺跡からの出土品を展示しています。

134 歴史資料室



所在地：露町一丁目10番1号
まなびの館ロースコム4階

見学情報 P WC 輪

開館時間／10:00～18:00
休館日／月曜・祝日・年末年始
入場料／無料

『東京阿部家資料』の調査・研究・保存・活用を図るとともに、展示や資料目録作成により福山市の歴史啓発活動を行っています。

南部 鞆エリア

瀬戸内海の中心に位置する鞆の浦は、万葉集にも詠われた潮待ちの港として発展しました。南北朝時代には争乱の場として、江戸時代には朝鮮通信使が立ち寄る港として、数多くの歴史上の人物が鞆の浦に立ち寄っています。古い町並みや数多くの寺社が残り、福山市内で最も重要文化財建造物が残るエリアです。



鞆公園



201 福山市鞆町伝統的建造物群保存地区



指定種別：市保存地区
 所在地：鞆町
 見学情報
 町並み散策では、交通に気をつけてください。

鞆町は、古くから海上交通の要衝であり、「潮待ち・風待ち」の港として、万葉の時代から栄えていました。保存地区には、江戸時代から昭和の戦前にかけて建てられた優れた意匠の町家が多く存在します。港湾施設の常夜燈、石段状の船着場である雁木（がんぎ）など歴史的景観を演出するものも多く残されており、港町として盛えた歴史的な町並みを形成しています。

202 沼名前神社能舞台



指定種別：国重要文化財
所在地：鞆町 沼名前神社
見学情報 **P WC**
能舞台は覆いの板で囲まれているが、神能祭などでは外します。

当初は伏見城内にあった能舞台を水野勝成が伏見櫓などとともに拝領して福山城に移築し、鞆で産まれた三代の勝貞が当社に寄進した後に固定化されました。当初は簡単に分解・組立ができる「移動式」で、豊臣秀吉が各戦場へも運べるように造ったと伝えられています。この組立式の能舞台は国内唯一で、今もそれを示す天井の組パネルなどを見ることができます。

203 沼名前神社鳥居



指定種別：県重要文化財
所在地：鞆町 沼名前神社
見学情報 **P WC**
この鳥居は二の鳥居とも呼ばれ、手前には一の鳥居もあります。

1625（寛永2）年、福山二代藩主の水野勝重が、武運長久などを願って寄進したものです。笠木の先端の上に鳥袂（とりびすま）を載せた特異なもので、鳥が止まっているように見える極めて珍しい様式です。左の柱に「大工 肥前之住人 中島弥兵衛」、右の柱に「大工 豫州之住人 左兵衛尉」と刻まれており、わざわざ肥前（佐賀）と豫州（愛媛）の名工に合作させたものです。

204 沼名前神社石とうろう



指定種別：市重要文化財
所在地：鞆町 沼名前神社
見学情報 **P WC**
この境内は、多彩な石造物の宝庫です。

「鞆殿」とも呼ばれた福山三代藩主の水野勝貞が、1651（慶安4）年、社殿前に一対で寄進したものです。六角の台座の上に竿石を建て、大型で荘重な造りです。火袋の窓は、日月などの意匠が配されています。刻銘には「…不盡乾坤灯外灯 無邊風月眼中眼 慶安四年…」とあり、寄進年とともに唐の詩人・杜牧の詩の一節が風流に記されています。

205 鞆ノ津の力石



指定種別：市有形民俗文化財
所在地：鞆町 沼名前神社・住吉神社
見学情報
鞆の浦歴史民俗資料館でも1個（沼名前神社蔵）、展示されています。

港町・鞆では、荷役作業に従事した仲仕などが祭礼の場で力石を使って力比べをし、持ち上げた人の名前などをその石へ刻み、神社に奉納しました。力士のしこ名や地名もみえ、重たいものは230kg、江戸時代後期の年号が記されたものは5個あります。現在、沼名前神社に20個、鞆港の住吉神社に3個、奉納されており、当時のにぎわいをうかがうことができます。

206・207・208

備後安国寺／安国寺釈迦堂附柱聯1双／安国寺のソテツ

指定種別：県史跡／国重要文化財／県天然記念物
所在地：鞆町

見学情報 **P WC**

開門時間／8:00～17:00(冬季8:30～16:30)、拝観料／大人150円、学生（高校生以上）100円、団体（30人以上）100円



備後安国寺は1339（暦応2）年に創建され、一時衰退しましたが、1599（慶長4）年安国寺恵瓊（あんこくじえい）によって再興されました。1273（文永10）年創建の金宝寺が前身とされ、国重文の釈迦堂は鎌倉時代の仏殿の姿を留めており、重文の木造阿弥陀如来及び両脇侍立像などが安置されています。

境内一帯は、備後安国寺として県史跡に指定されています。室町幕府が国ごとに交通・政治・軍事の中心地に安国寺を整えるなかで、要衝地であり、足利尊氏と因縁のあった鞆が選ばれました。境内には室町時代に作庭された枯山水が今も伝わっており、鶴島や亀島も配されています。ソテツは恵瓊による修築の際に植えられたと伝えられ、かつては2株で、県内有数の大木として県の天然記念物に指定されましたが、白蟻と台風により倒れ、その根株から伸びた葉茎が昔日の面影を留めています。

209 石造地藏菩薩坐像



指定種別：国重要美術品
所在地：鞆町 安国寺

安国寺前の地藏堂内にあります。舟形光背を背負う丸彫りの石像が蓮華座に載っています。光背裏面に、「1330（元徳二）年 庚午卯月廿三日 願主藤原貞氏」の銘があります。像は簡素古拙で、地藏菩薩の慈悲慈相を湛え、鎌倉時代の石仏としての風格を備えた優作です。県内の石仏で銘のあるものとしては、3番目に古い貴重な鎌倉時代の作例です。

210 朝鮮通信使遺跡 鞆福禅寺境内



指定種別：国史跡
所在地：鞆町 福禅寺境内
見学情報
開門時間／8:00～17:00
拝観料 200 円

江戸時代、将軍の交代時などに外交使節として来日した朝鮮通信使は、鞆に船中・宿泊等を含め11往復寄港しました。この際に、福禅寺の本堂の客殿が、正使・副使・従事官の宿所に当てられました。この客殿は元禄年間(1688～1703)の創建と伝えられ、弁天島・仙酔島などの景勝をめぐる絶好の立地にあります。この絶景を前に、1711(正徳元)年、従事官の李邦彦は「日東第一形勝」の大毫を残しました。また1748(延享5)年には正使・洪啓禧が、客殿を「対潮楼(たいちょうろう)」と命名し、その息子の洪景海が書にしたため、藩主の阿部正福が扁額に仕立て、今でもこの座敷に掲げられ光彩を放っています。この他、対潮楼内には、通信使の墨蹟を木額にしたものが数多く飾られており、朝鮮通信使の博物館といえます。

また2015(平成27)年3月25日に、同時に伝来する「日東第一形勝」などの墨書28点が「福禅寺対潮楼朝鮮通信使関係史料」として福山市重要文化財に指定されています。



紙本墨書「日東第一形勝」

211・212・213

太田家住宅／太田家住宅朝宗亭／鞆七卿落遺跡

指定種別：国重要文化財／国重要文化財／県史跡

所在地：福山市鞆町鞆

見学情報 太田家住宅朝宗亭の内部見学はできません。

太田家住宅、開場時間／10:00～16:30、休館日／火曜日(祝日の場合翌日)・年末年始(12/29～1/3)、入場料 400 円



江戸中期から明治にかけ、保命酒の醸造販売で栄えた商家(中村家)の遺構です。四方を道路に囲まれた広い敷地に、主屋(しゅおく)を中核に附属建物8棟が並び建ち、建築年代は18世紀中期の主屋から19世紀の新蔵に及びます。1996(平成8)年から約6年をかけて、江戸時代末期から明治時代初期の姿に復元され、鞆の歴史的町並みの中心をなしています。

朝宗亭は通りを挟んで建つ「太田家住宅」の別宅で、藩主の御成りに使われ、格式をそなえた造りのよい町家です。鞆港に面し海上からの利便性も備え、江戸時代後期には本陣として、大名や都を追われた7人の公家(七卿)も立ち寄り、迎賓館の役割を果たしました。七卿が立ち寄った中村家は、明治期に太田家に引き継がれました。こうした歴史的背景から「太田家住宅」「太田家住宅朝宗亭」は、鞆七卿落遺跡の名を残しています。

214 いろは丸展示館



登録種別：国登録有形文化財
所在地：鞆町鞆
見学情報
休館日／12/28～1/1
開館時間／10:00～17:00
入場料／小学生以上200円(150円)
※()内は30名以上の団体(小学生100円、引率者無料)

鞆のシンボル「常夜燈」の手前、雁木の正面に建つ「大蔵」と呼ばれる土蔵を利用しています。この土蔵は江戸後期(文化年間)の建築であり、港町として繁栄した鞆の往時を偲ばせる、ひときわ目立つ建物です。1867(慶応3)年、鞆の浦沖で沈んだ海援隊の乗船していた「いろは丸」の引き上げ品、関連資料などが展示されています。2階には、坂本龍馬の隠れ部屋も再現されています。

215 岡本家長屋門



指定種別：市重要文化財
所在地：鞆町鞆

旧福山城郭内に所在した長屋門です。廃城の後、民間への払い下げで、明治初期に現在地へ移築されました。部分的に改造が見られますが、17世紀初期建造の福山城郭内の遺構として貴重なものです。入母屋造、本瓦葺で、門の両側に番所を有していたものですが、現在は左側のみにあります。鞆の歴史的町並みによく調和し、商家として使用されています。

216 鞆の津の商家



指定種別：市重要文化財
所在地：鞆町鞆
見学情報
開館時間／10:00～16:00
開館日／土、日曜日、祝日のみ
公開・年末年始は休館、無料

主屋(切妻、平入)と土蔵(切妻、妻入)からなり、2階建本瓦葺で接続しています。主屋は江戸時代末期の建築で、出格子(でごうし)や入り口には跳ね上げ式の大戸があり、通り庭(通り土間)に面して、店の間・中の間・奥の間が並ぶ古い商家の典型的な間取りです。土蔵は明治時代に他所から移築したもので、黒漆喰の壁には虫籠窓(むしこまど)が見られます。

217 鞆城跡



指定種別：市史跡
所在地：鞆町

鞆城跡は、町の中央部で港を見下す孤丘に位置しています。毛利元就の命により、渡辺氏が、1553(天文22)年前身となる鞆要害を築きました。毛利輝元は、京都を追われた足利義昭を1576(天正4)年鞆に迎え、居館を作り鞆幕府とも呼ばれました。1600(慶長5)年に入封した福島正則が三層の天守を築いて城郭を整えましたが、一国一城令以前の1609(慶長14)年に廃城となっています。現在は、石垣等が当時の様子を物語っています。

218 大可島城跡 附 伝桑原一族墓地



指定種別：市史跡

所在地：鞆町

ここは南北朝時代、戦争奪の古戦場で、現在は陸続きとなり円福寺が建てられています。かつては島であり、大可島城がありました。1342(康永元)年燧灘(ひうちなだ)の合戦が勃発、伊予の南朝軍は鞆の大可島を占領、ここに拠点構えました。北朝軍は小松寺に陣を構え、激戦に及びました。南朝軍は備後服部より出た桑原重信を残し引き上げ、北朝軍は桑原氏を滅ぼし、大可島は再び北朝側に帰しました。これがいわゆる「鞆の合戦」です。城地にある石塔は桑原一族の墓と伝えられています。

219 平賀源内生祠



指定種別：県史跡

所在地：鞆町

江戸時代の蘭学者平賀源内は、高松藩薬用方出身でエレキテル・寒暖計の発明、陶器や西洋画の普及など広い分野で活躍しました。源内は長崎よりの帰途1752(宝暦2)年鞆の溝川家に寄寓中、医王寺の参道近くで陶土を発見し、源内焼の製法を伝え、「土の神・竈の神・平賀源内大明神」を「三宝荒神」として祀るよう言い残していったといわれています。生祠は、溝川家が1764(宝暦14)年に祀ったものです。

220 南禅坊



登録種別：国登録有形文化財

登録建造物：本堂・山門

所在地：鞆町

浄土真宗本願寺派の寺院で、1748(延享5)年、朝鮮通信使(第10回)の学士・書記と福山藩の学者伊藤大佐が当寺で接会し、漢詩文を唱和するなど江戸時代を通じて朝鮮通信使の宿舎として使われました。本堂は、1860(万延元)年再建。内陣や要所に組物や豪華な彫刻を多用しており、幕末以降に流行した真宗本堂の特徴を示しています。山門は、火灯笼や円窓軒を配し、軒先に反りを持たせた異国情趣を漂わせる鐘楼門。上層の懸魚に1810(文化7)年の墨書があり第12回通信使の来日予定に備えて増築されたことが考えられます。

221 弁天島塔婆(九層石塔婆)



指定種別：県重要文化財

所在地：鞆町 弁天島

見学情報

仙酔島への渡船の途中で、少し見ることもできます。

鞆の海に浮かぶ弁天島の石塔婆の現状は九層ですが、もとは十一層の石塔婆で、第五層と第六層が欠失しています。初重軸部に「文永八年(1271)」などの紀年銘が記されています。鎌倉時代の形式と手法の特色を備えた優れた作品で、県内にある在銘の石塔の中では、最古のものであります。

222・223 仙酔島の海食洞／仙酔層と岩脈

指定種別：県天然記念物／県天然記念物

所在地：鞆町 仙酔島／鞆町 仙酔島

見学情報

仙酔島へは渡船で約5分です。(有料)



海食洞は、波浪の浸食作用によってできたもので、大小あわせて約200個に達し、いくつかは洞門を形成しています。海食洞の多くは、現海面の最高潮位より2~3m高い位置にあり、海食洞形成後の水位の変化を示すもので、地球の一変動過程を示す証拠として貴重なものです。

仙酔島の地質は、主として今から1億数千万年前の中生代白亜紀に噴出した流紋岩および流紋岩質凝灰岩により構成され、これらを仙酔岩体とよんでいます。この岩体を基盤に厚さ15mにわたって頁岩(けつがん)、凝灰岩質砂岩などの互層による堆積岩(仙酔層)がみられ、その上部は再び仙酔岩体となっています。これは、火山活動による仙酔岩体の形成過程で活動休止期があり、その間に仙酔層が堆積したことを示しています。

224 鞆公園



指定種別：国名勝

所在地：鞆町・沼隈町

仙酔島をはじめ、つつじ島・弁天島・玉津島など大小の島々が浮かび、瀬戸内海の中でもとりわけ美しい鞆周辺が、1925(大正14)年名勝「鞆公園」に指定されました。この島々のほか、沼隈半島の南端にある、けわしい海食崖の阿伏兎岬(沼隈町)の奇勝も含まれています。また、この9年後、鞆の浦をはじめとする瀬戸内海は、わが国最初の国立公園として指定されました。

225 福山市鞆の浦歴史民俗資料館



所在地：鞆町後地536-1

見学情報 P WC ♿

開館時間／9:00~17:00(入館は16:30まで)、休館日／月曜日(祝日の場合は翌日)・12/29~1/3・臨休有、入館料／150円(120円)、※()内は20名以上の団体、高校生まで無料、☎(084)982-1121

鞆の浦歴史民俗資料館は、市制70周年の記念事業として、鞆城跡の高台に建設されました。館内には、古代から近世にいたる歴史資料、お手火神事やお弓神事などに関する民俗資料などが常設展示され、「潮待ちの館」の愛称で親しまれています。また、特別展や企画展では、鞆の浦を中心にした瀬戸内の歴史・文化・民俗をテーマに、特色ある展示会が開催されています。館内の見学とともに、鞆城跡からの眺望も併せてお楽しみください。

南部 沼隈エリア

東西南の三方を海に囲まれた沼隈半島では、海にかかわる文化財が豊富です。海にせり出したお堂、干拓の歴史を物語る樋門、島の暮らしを物語る漁具など、沼隈エリアならではの地域性が感じられます。また、平家谷では源平合戦にまつわる伝説が残され、内陸部で中世に開かれた寺院もまた、地域の歴史と独特の趣を今に伝えています。



磐台寺観音堂



301・302・303 磐台寺観音堂 / 磐台寺客殿 / 磐台寺回廊鐘楼

指定種別：国重要文化財 / 県重要文化財 / 市重要文化財 所在地：沼隈町能登原(磐台寺)
見学情報 **P** **WC** 開門時間 / 8:00 ~ 17:00, 無休, 拝観料 / 100円, 小学生 50円



阿伏兔(あぶと) 観音として知られる磐台寺は、暦応年間(1388~1342)の開基で、元亀年間(1570~1573)に毛利輝元により再建されたと伝えられます。海にせりだした岩上に建てられた観音堂は、外部は丹塗、内部格天井には藤井松林による極彩色の百花図が描かれており、組物など細部は室町時代最末期の様式をよくあらわしています。

客殿は、元亀年間に観音堂とともに再建されたと伝えられます。中央に仏壇の間を設け、左右に書院と奥の間を配した禅宗の方丈建築で欄間の意匠もすぐれています。

回廊は観音堂と客殿をつなぐ建物で、棟札には「再興寛文七(1667)季八月十日」とあります。当時の用材として残っているのは、瓦、柱、梁、石段で、石段の幅には一部後世の変更がみられます。鐘楼は十返舎一九や歌川広重の版画にもみられます。

304 能登原八幡宮鳥居



指定種別：市重要文化財
所在地：沼隈町能登原
(能登原八幡宮)

高さ 3.50m, 笠木の長さ 3.44mで、特徴は笠木の両端が反り上がり、鳥がとまっているように見える「鳥衾(とりぶすま)」を載せていることです。1724(享保 9)年に建てられ、「石工和泉吉三郎」の銘があります。泉州石工による作例は、県内では二十数例が知られています。

305 草深の唐樋門



指定種別：県史跡
所在地：沼隈町草深

江戸時代初期の寛文年間(1661~1673)に磯新涯(いそしんがいの干拓に伴い建設されたもので、樋の堂と呼ばれる建物と、床下の樋門の部分からできています。かつては潮の干満に合わせて樋門を開閉し、干拓地への海水の流入防止と、排水を調節する役割を果たしていました。現在は樋門の開閉はしていませんが、瀬戸内海沿岸の干拓造成を知るうえで貴重な産業遺跡です。

306 光照寺山門



指定種別：県重要文化財
所在地：沼隈町中山南
(光照寺)

見学情報 **P**

光照寺は浄土真宗の中国地方における中核的な寺院で、鎌倉から山南に入った明光上人らによって 1320(元応 2)年に建立されたと伝えられます。山門は、1613(慶長 18)年の棟札があり、様式上も江戸時代初期と考えられます。当初の彩色はほぼ完全に残っており、禅宗様を基調とした意匠の優れた門です。

307 光照寺鐘撞堂



指定種別：県重要文化財
所在地：沼隈町中山南
(光照寺)

鐘撞堂は 1613(慶長 18)年の創建で、後世の改造は天井を一部張り替えたのみで当初の姿をよくとどめています。県内では最も古く、規模の大きな四脚鐘撞堂の一つです。市重文の銅鐘は、慶長 18 年の年号と、羽柴左衛門大夫正則(福島正則)と代官間島美作守の名が刻まれています。

308 延広神社鳥居



指定種別：市重要文化財
所在地：沼隈町上山南
(延広神社)

高さ 4.25m, 笠木の長さ 3.80mで、笠木の反りが少なく、柱の内転びが小さい古様式を残しています。柱の銘文によると、1616(元和 2)年に山南村惣氏子が寄進し、鞆石工文造作とあります。

309 亀山八幡神社鳥居



指定種別：市重要文化財
所在地：沼隈町草深
(亀山八幡神社)

見学情報 **WC**

高さ 4.09m, 笠木の長さ 3.71m, 笠木に「鳥衾(とりぶすま)」を載せていますが右側は欠けています。銘文には、1723(享保 8)年に尾道石工・平三郎が造り、草深の惣氏子が寄進したことが刻まれています。

310 常国寺建物（唐門・鐘楼・番神社本殿）

指定種別：市重要文化財 所在地：熊野町（常国寺）

見学情報 **P WC**



常国寺は、文明年間（1469～1487）に日親上人が開基し、一乗山城主渡辺越中守兼（かね）が菩提寺として創建したと伝えられています。指定の3棟はいずれも常国寺中興の江戸時代中期、元禄（1688～1704）頃のもので、唐門は元禄頃の再建で正面棧唐戸は前身の建物の戸が使用されたと考えられ、鏡板の桐文薄肉彫りは優品です。鐘楼は福山藩家老水野玄蕃の母が施主となって建立されました。番神社本殿は覆屋に納まる小社で棟高2.87mを測り、元禄時代の様式をよく伝える社殿です。

311 一乗山城跡

いちじょうざんじょうあと



指定種別：市史跡
所在地：熊野町上山田

中世の豪族渡辺氏の居城で、黒木城とも呼ばれます。渡辺越中守兼によって築城され、文明年間から永正年間（1469～1521）にかけて入城したと伝えられます。城は北へ延びる尾根を利用し、南は堀切、北は堅堀で区画し、頂部の南半分を檜台状にした平坦面を設けています。また、郭や石垣、井戸等もよく残っています。

312・313 常国寺のケヤキ / 常国寺のモッコク

指定種別：市天然記念物 所在地：熊野町（常国寺境内）



ケヤキは本州・四国・九州の山野に広く自生するニレ科落葉高木です。常国寺のケヤキは市内では珍しい巨木で、目通り周囲4m、樹高約30mのものを最大とし、これに準じる大きさのものが2本あります。

モッコクは関東以西の暖地に自生するツバキ科の常緑広葉樹であり、常国寺のモッコクは周囲の状況から自生と判断されます。根回り2.19m、地上1.3mで2本に分岐し、目通り周囲は大1.86m、小0.63m、樹高約14mを測り、樹勢旺盛、県内屈指の巨木です。

314 熊野の上代土器窯跡



指定種別：県史跡
所在地：熊野町草田

奈良・平安時代の須恵器窯跡で、南東に延びる小丘陵の斜面に築かれています。長さ約4mと推定され、最大幅1.7m、高さ約1mを測り、出土した須恵器には杯、碗を主体として、皿、鉢、甕などがあります。付近にはこの他にも数基の須恵器窯跡があり、瓦も出土しています。隣接する沼隈町山南（さんな）にも同時期の窯跡があります。

315 田尻民俗資料館

たじり



所在地：田尻町1945-2

見学情報 **P WC**

開館時間／9:00～16:00、
開館日／毎週日曜日、年末年始は休館、
団体で平日の入館希望の場合は要事前
連絡 ☎084-956-0219（高島公民館）
入館料無料

1975（昭和50）年に旧村役場を改装、翌年から資料館として開館しました。半農半漁に生き、困難な条件を勤勉さで克服してきた先人たちが残した多くの民具を展示しています。農耕用具、漁撈用具、染織用具、祭祀用具や衣・食・住に関する資料が中心です。これらの内、1022点が田尻民俗資料として県の有形民俗文化財に指定されています。

316 山本瀧之助記念室



所在地：沼隈町常石1810
（ぬまくま交流館内）

見学情報 **P WC** ♿

開館時間／10:00～19:00（土・日・
祝日は～18:00）、休館日／館内整
理日（月1回）特別整理期間、
12/29～1/3、入館料無料
☎084-987-5630（沼隈図書館）

沼隈町草深出身で、青年教育に生涯をささげ、「青年の父」と呼ばれた山本瀧之助の業績を示す資料（市指定重要文化財69点）を展示しています。

317 歴史民俗資料展示室（うつみ市民交流センター）



所在地：内海町88-60

見学情報 **P WC** ♿

開館時間／9:00～17:30、
休館日／毎月第1月曜日・
12/29～1/3、入館料無料

船大工が製作した和船の模型や製作道具、漁具をはじめ、市重文「田島村・横島村近世文書」など、内海町の歴史民俗資料を展示しています。

せいぶ

西部エリア

松永湾岸には縄文時代の貝塚があり、かなり古くから人びとが居住していたことがわかっています。古墳時代にも松本古墳など多くの古墳が作られました。

江戸時代になると本庄重政が大干拓事業を行い、地名も松永となり、製塩業で発展を遂げます。その後、下駄作りで日本を代表する産地となり、福山市松永はきもの資料館での展示やゲタリンピックなどの催しが行われるなど、伝統文化を活かしたまちづくりが行われています。



旧マルヤマ商店事務所



西部エリア

西部エリア

401 ほんじょうしげまさぼ 本庄重政墓



指定種別：県史跡
所在地：松永町五丁目
(承天寺境内)
見学情報
JR 松永駅より約 900m

本庄重政は、福山藩家臣の嫡子として生まれましたが、江戸に出て兵法を学び、島原の乱で戦功を立てました。岡山藩池田家に仕えた後、福山藩に戻り、松永湾の塩田の開発や新田開発に多大な功績を残しました。松永の地名も本庄重政によるものです。承天寺は本庄家の菩提寺で、重政の墓石は八角柱形をしています。

402 まつながみのちょうきょうどういど 松永上之町共同井戸



指定種別：市史跡
所在地：松永町
(上之町集会所内)
見学情報
JR 松永駅より約 1km

松永の塩田が成立すると、人々は山裾沿いに居住することになりましたが、干拓地は地中に塩分を含むことから、水筋の良い地に井戸を掘削し、共同で利用していました。現在ではコンクリートで覆われていますが、花崗岩を用いた大型の胴張円形井戸で、井戸側は長石上に断面台形状の井桁を用いています。

403 いまつほんじんあと 今津本陣跡



指定種別：市史跡
所在地：今津町
見学情報
見学は外観のみ
JR 松永駅より約 1.6km

江戸時代に西国街道の整備に伴い、今津には宿が設けられ、参勤交代の際に大名が宿泊する本陣が置かれました。今津の本陣は、1602(慶長7)年頃に設置されたと伝えられ、主要な建物は現存していませんが、門構えや石垣などが当時の面影を今に伝えていきます。

404 松本古墳



指定種別：県史跡
所在地：神村町
見学情報
JR 松永駅より約 1km

松永湾沿岸を代表する古墳で、直径 45m、高さ 6.5m の円墳に、幅 17m、長さ 7m、高さ 2m の造出しが付く帆立貝形古墳で、周囲の水田の形から周濠が周囲に巡らされていたと考えられます。埋葬施設は、竪穴式石室か箱式石棺と考えられ、水鳥形埴輪や円筒埴輪、須恵器などが採集され、葺石も確認されています。5世紀前半の築造と考えられます。

405 おさぼ 長波古墳



指定種別：市史跡
所在地：今津町
見学情報
JR 松永駅より約 2km

松永湾を望む丘陵上に築かれた直径 14m、高さ 3mの円墳です。埋葬施設は、壁石を天井に持ち送り状に積み、ドーム状を呈しています。こうした石室構造が駅家町にある県史跡山の神古墳に似ていることから、古式の横穴式石室と考えられています。

406 ながまつ 永松古墳



指定種別：市史跡
所在地：東村町
見学情報
JR 松永駅より約 3.5km

直径約 10mの円墳と考えられ、内部主体は北西に開口する無袖式の横穴式石室で、平面形は胴張形をしています。規模は玄室長 3.5m、羨道長 2.7m、幅約 2m、高さ 1.9mで、出土遺物は知られていません。

407 うまとり 馬取遺跡



指定種別：県史跡
所在地：柳津町
見学情報
史跡の一部に覆い屋をして整備。JR 松永駅より約 3km

松永湾岸にみられる代表的な貝塚で、馬取西貝塚と馬取東貝塚を合わせて馬取遺跡と呼んでいます。縄文時代早期から晩期にかけての貝塚で、多量の縄文土器や石器が出土しています。縄文時代以降では須恵器・土師器・製塩土器などが出土しており、この地に約 1 万年前から人が住んでいたことがわかります。現在は貝塚の一部に覆屋を設け保存しています。

408 ほうきょういんとう 宝篋印塔



指定種別：市重要文化財
所在地：金江町
(実藏坊境内)
見学情報
JR 松永駅より約 4km

相輪を失っていますが、塔身の四面に梵字を配し、その一面に 1378(永和4)年の銘がある南北朝時代に制作された宝篋印塔です。

409 大田神社の大クスノキ



指定種別：市天然記念物
所在地：藤江町
(大田神社境内)
見学情報
JR 松永駅より約 4.5km

クスノキ科の常緑高木で、関東以西の暖地に多く分布し、巨樹になるものが多く、古くから神社などに植えられています。このクスノキは根回り 9.5m、幹の胸高周囲 5.6mを測り、枝張りは周囲約 30m、樹高約 23mです。

410 金江の大ムロノキ



指定種別：市天然記念物
所在地：金江町

ムロノキは別名ネズ・モロギともいい、ヒノキ科で、関東以西の海岸に分布し、特に山陽地方に多くみられます。このムロノキは、主幹は枯れていますが、根元から出た側枝が旺盛な樹勢を見せています。主幹の目通り周囲は 4.3mあり、樹高約 8mです。

411 神村のクスドイゲ



指定種別：市天然記念物
所在地：神村町
(荒神社境内)

クスドイゲはイイギリ科の常緑低木で、近畿以西の海岸地域に自生しています。このクスドイゲは目通り周囲 1.2m、樹高 5.5mで、樹齢は約 300 年といわれ、このような小高木状になるのはきわめて珍しいものです。

412 高諸神社のハク



指定種別：市天然記念物
所在地：今津町
(高諸神社境内)
見学情報
JR 松永駅より約 1.7km

ハクはヒノキ科ビャクシン属の常緑高木で、イブキ・イブキビャクシンとも言い、宮城県以南の海岸地方に多く自生し、園芸種も豊富です。このハクは社殿西南側の岩盤上に自生し、目通り周囲 3.7m、樹高約 10mとなる巨木です。

413 村上家住宅 主屋ほか



登録種別：国登録有形文化財
所在地：今津町
見学情報
石垣の外観のみ見学可
JR 松永駅より約 1.5km

屋号を「竹本屋」といい、塩関係・廻船業などを営み栄えたと伝えられています。現在の建物は江戸時代末から明治時代後期にかけて建てられたもので、主屋・衣裳蔵・米蔵・納屋・長屋門・腕木門・井戸屋形・石垣が登録有形文化財に登録されています。

414 旧マルヤマ商店事務所



登録種別：国登録有形文化財
所在地：松永町 4-16-27
見学情報 P
JR 松永駅下車、南東方向に約 360m。福山市松永はきもの資料館敷地内にある。土曜日午後 13:00～17:00 に地域サロンとして公開。入場料/無料

1922 (大正 11) 年、かつて下駄の生産で活況を呈した「マルヤマ商店」の本店事務所として建てられた木造モルタル 2 階建・擬似石造りの建物です。建物の外観は、大正期の本格的洋風仕上げで、壁面に造り出された柱の頭部には紋章様の装飾「メダリオン」があり、屋根を囲うように壁を立ち上げた「パラベット」の下には、雷紋や枳形の連続模様が配され、瀟洒な洋風の雰囲気をかもしだしています。

415 福山市松永はきもの資料館



所在地：松永町 4-16-27
見学情報 P WC ♿
開館時間 / 10:00～16:00
(入館は 15:30 まで) 開館日 / 金曜日～日曜日および祝日
※年末年始 (12/28～1/3) は休館。
入館料 / (はきもの玩具館のみ) / 個人 300 円、団体 (20 人以上) 240 円。
☎(084)934-6644



2013 (平成 25) 年に閉館した民間の「日本はきもの博物館・日本郷土玩具博物館」を福山市が受け継ぎ、「福山市松永はきもの資料館 あしあとスクエア」として改装開館したものです。「はきもの玩具館」では、旧館から受け継いだ下駄や履物、オリンピック選手などのアスリートが愛用したシューズ、(国重要有形民俗文化財に指定されたはきもの資料 2266 点を含む) など約 1 万 3000 点と、昔懐かしい郷土玩具約 1 万 8000 点を収蔵・展示しています。また、エントランスホールには福山市にゆかりのある人物を紹介したコーナーがあります。「伝統産業館」では、塩・蘭草・下駄といった地元の伝統産業を体系的に展示しています。

東部エリア

東部エリアの低地部は、そのほとんどが江戸時代の干拓事業によって拓かれた土地です。文化財指定こそされていませんが、昔の海岸部付近には多くの貝塚や古墳があり、坪生から笠岡にかけては古代の窯跡も多く確認されています。

蔵王山から南に延びる深津高地は、万葉集に深津島と詠まれ、宮の前廃寺の前には港があったと考えられており、干拓以前のこの地域の風景は、今からは想像のできないものです。



宇山のエリアマップ



501 宮の前廃寺跡



指定種別：国史跡
所在地：蔵王町
(蔵王八幡神社)
見学情報 **P WC**
福山東 IC より約 300m

蔵王八幡神社境内に所在し、東に塔、西に金堂を配した法起寺式の伽藍配置を持つ古代寺院跡で、海蔵寺の名が伝えられていました。発掘調査により、塔と金堂には埴積の基壇を用いていることが分かり、レンガで環境整備を行っています。出土遺物には奈良・平安時代の軒瓦や「紀和古女」などの文字を陰刻した瓦も出土しています。

502 福山衝上断層 奈良津露頭



指定種別：県天然記念物
所在地：奈良津町
見学情報
落石の危険があるため、斜面に近寄らないでください。
福山東 IC より約 2.4km

福山衝上断層は、木之庄町から坪生町に至る衝上断層で、古い地層である山側の花崗岩が、新しい地層である南側の福山累層に乗り上げた状況が観察できます。露頭の保護のため、断面は見にくくなっています。

503 福山衝上断層 蔵王城山露頭



指定種別：県天然記念物
所在地：蔵王町
見学情報
福山東 IC より約 1.2km

木之庄町から続く福山衝上断層の奈良津町の露頭と、蔵王町城山の露頭が県天然記念物として保存されています。蔵王城山の露頭では礫層・礫砂層の堆積が厚く、洪水層の上に花崗岩が乗り上げたものと考えられます。

504 伝足利義昭居館跡「葎山」



指定種別：市史跡
所在地：西深津町
(稲荷神社)
見学情報
福山東 IC より約 2.5km

1576(天正4)年、室町幕府最後の将軍足利義昭は、織田信長に京都を迫られ、毛利氏を頼って鞆に到着します。1587(天正15)年に再上洛するまでの間、鞆や津之郷に居を構えますが、この葎山にも足利義昭の居館があったとの伝承が残っています。

505 大陰2号古墳



指定種別：市史跡
所在地：春日町能島
(能島第2公園内)
見学情報
福山東 IC より約 3.2km

古墳時代後期の円墳と推定され、内部主体は花崗岩を使用した無袖式の横穴式石室です。出土遺物は知られていませんが、北東約90mに位置していた1号古墳からは金環や須恵器が出土しています。

506 坪生滑池窯跡



指定種別：市史跡
所在地：坪生町
(坪生ニュータウン内)
見学情報
福山東 IC より約 6km

滑池の東斜面に2基の須恵器窯跡があり、指定地は芝生で保護しています。出土した土器から奈良・平安時代に操業されていたと考えられ、岡山県笠岡市北西部を含むこの一帯に、このような窯跡が多く確認されています。

507 宇山のエヒメアヤメ及びその自生地



指定種別：市天然記念物
所在地：春日町
見学情報
植物保護のため詳細な場所は非公開です。

元来は大陸系の植物で、日本では岡山県以西の本州、四国、九州にわずかに自生し、大陸と地続きであったことを示す植物として重要で、環境庁の絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。エヒメアヤメの名は1897(明治30)年に愛媛県で発見されたことにちなんで名付けられましたが、江戸時代から誰故草(たれゆえそう)の名で呼ばれており、『西備名区』にも紹介されています。

508 大谷古墳



指定種別：未指定
所在地：福山市引野町
(ゆめみが丘第2公園内)

大谷古墳は、福山湾を見おろす引野丘陵の南斜面にあった古墳です。2000(平成12)年にこの一帯が開発されることになり、これに伴って発掘調査が行われました。発掘調査の結果、墳丘は直径約8.5m、残存する高さ1.7mであることが明らかになりました。また石室の側壁の石組は左右非対称の構造を持つ珍しい形態であることも分かりました。内部に副葬品などはほとんど残されていませんでしたが、わずかに見つかった須恵器や土師器などから6世紀後半に造られた地元有力者の墓と考えられています。その後事業者の寄贈により2002(平成14)年に移築整備が行われました。なお石室は元は南東方向に開口していましたが、移築用地の関係で現在は北向きになっています。

北東エリア

古く安那郡と呼ばれていたこのエリアは、県内でも遺跡が集中する地域のひとつで、弥生時代の大集落や、多くの古墳、備後国分寺や神辺城などの多くの山城が確認されており、長い間備後の中心として栄えていたことがわかっています。

福山城築城に伴い、政治経済の中心は福山城周辺に移りますが、神辺は引き続き近世山陽道の宿場町として栄えました。



上原谷石灰岩巨大礎



601 廉塾ならびに菅茶山旧宅



指定種別：国特別史跡
所在地：神辺町川北
見学情報 **P WC**
J R福塩線神辺駅から約1.2km
見学は神辺町観光協会
☎(084-963-2230),10時～15時まで

菅茶山(1748～1827)は、安那郡川北村で本陣役を勤めた本荘屋菅波家(東本陣)に生まれました。18歳で家督を継ぎますが、その仕事を厭うようになり、学問を志して19歳で京都へ遊学し、古医法と朱子学を学びます。帰郷後の1775(安永4)年頃には、東本陣の東にあった居宅の中に私塾を開き、1785(天明5)年頃には金粟園(きんぞくえん)と呼ばれます。1790(寛政2)年頃になると塾生が増えたため、金粟園の北東に学舎(現在の講堂)を建て、黄葉夕陽村舎(こうようせきようそんしゃ)、別名閭塾(りょじゅく)を開塾します。さらに1796(寛政8)年には、私塾の永続を願って福山藩の郷校に願い出て、塾の安定を図ろうとします。これ以降、塾の名は廉塾、正式には神辺学問所と呼ばれました。塾生は福山藩をはじめ、中国・四国・九州・近畿・東北に及び、茶山の名を慕って門をくぐりました。塾では『四書五経』を中心とした講釈が行なわれ、頼山陽や北条霞亭(ほうじょうかてい)などの塾頭が補佐しました。江戸時代後期を代表する漢詩人、儒学者として全国に名を馳せた茶山ですが、この特別史跡を特色づけるのは教育者としての茶山です。茶山の後、廉塾は親族の自牧斎・晋賢に受け継がれて1872(明治5)年に閉塾しますが、その間3000人近くの塾生が学びました。江戸時代に盛行した私塾は全国に1500もあったといわれますが、その中で最も良く旧観を維持しており、当時の教育施設と歴代塾主の旧宅とともに茶山の息遣いを今に伝える貴重な特別史跡です。

602 菅茶山の墓



指定種別：県史跡
所在地：神辺町川北
見学情報 **P WC**
J R福塩線神辺駅から約800m

1827(文政10)年に80歳で没した菅茶山は、川北の黄葉山山麓の網付谷に葬られました。県史跡指定時の菅家墓地には26基の墓と2基の招魂碑がありました。茶山の墓は墓地の西寄りの玉垣で囲まれた木造棧瓦葺の須屋に守られ、中に墓碑と円形の墳墓があります。墓碑の撰文は頼杏坪(らいきょうへい)で「茶山先生菅君之碑」という題額は日野資愛(すけなる)によるものです。

603 神辺本陣



指定種別：県重要文化財・県史跡
所在地：神辺町川北
見学情報 **P WC**
J R福塩線神辺駅から約800m
見学は神辺町観光協会
見学日 毎月土・日・祝日
☎(084-963-2230),10時～15時まで

江戸時代に参勤交代大名・幕府役人の休泊施設であった神辺本陣は、寛文年間(1661～1673)に筑前黒田家の本陣役を勤めたことに始まります。大名休泊の時は、1746(延享3)年に建てられた母屋を始めとして、部屋数27、畳数200余枚を使い、大名とその附添衆50～70人の収容が可能でした。札の間には諸侯の休泊時に御成門(正門)にかかげた関札も数多く残されており、1855(安政2)年の建築という御成門と木造瓦葺の黒土塀が往時の本陣の風格を伝えています。

604 亀山弥生式遺跡



指定種別：県史跡
所在地：神辺町道上
見学情報 **P WC**
J R福塩線道上駅から約400m

標高37.5mの亀山丘陵にある、備後南部に弥生文化が伝えられた紀元前3世紀頃の初期農耕集落です。1980(昭和55)年からの発掘調査では弥生時代前期から中期の三重の環濠集落(かんごうしゅうらく)、東斜面では環濠の外側で全国で2番目に古い土壘(どるい)も発見されました。古墳時代中期になると、丘陵上には短甲(鎧)・鉄刀・鉄剣などを副葬した亀山第1号古墳が造られ、この時代の神辺平野東部を統率していた武人の性格を持つ支配者の墓と考えられます。

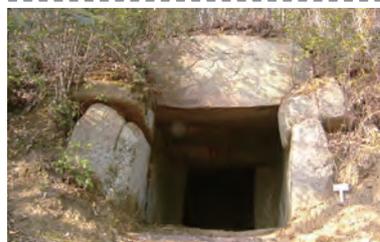
605 中谷廃寺跡



指定種別：市史跡
所在地：神辺町道上
(福山市道上小学校校庭)
見学情報 **P WC**
J R福塩線道上駅から約900m

暮待寺とも呼ばれる中谷廃寺は、奈良時代前期(7世紀後半)に創建され平安時代後半まで続いた寺院跡です。発掘調査の結果、西に塔、北に講堂が検出され、東に金堂を配置する法起寺式伽藍配置の寺院であったと考えられます。備後地域への初期仏教文化の伝播を知る上で貴重な遺跡と言えます。

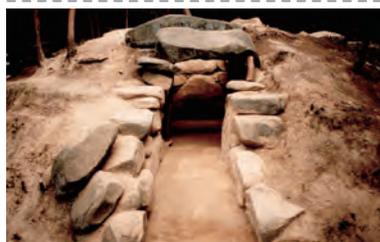
606 大坊古墳



指定種別：県史跡
所在地：神辺町西中条
見学情報 **P WC**
個人所有

中条谷の西側丘陵先端に築かれた、巨大な横穴式石室をもつ古墳です。直径14m、高さ約5mの南北方向にやや長い円墳で、15m×12mの長方墳の可能性もあります。全長11.3m、玄室・羨道幅2m、高さ2mの横穴式石室で、表面を磨いたような花崗岩が使われています。玄室と羨道は同じ規模で、玄室は前後二室に分けられ、入口には2本の石柱が立てられています。高度な土木技術が駆使して造られており、7世紀前半の古墳時代終末期頃に造られた首長墓と考えられます。

607 迫山第1号古墳



指定種別：県史跡
所在地：神辺町湯野
見学情報 **P WC**
井原鉄道井原線湯野駅から約1.8km

備後国分寺跡の北西丘陵に迫山古墳群は11基の古墳が確認されています。その中でも最大規模を誇るこの古墳は直径21.5m、高さ5mの円墳で、全長11.6m、玄室幅2.5m、高さ2.8mの南東に開口する片袖式の横穴式石室です。石室規模と出土遺物から神辺平野東部の有力な首長墓と考えられます。発掘調査で出土した単鳳環頭大刀(たんほうかんとうたち)などの出土遺物は県重要文化財に指定され、神辺歴史民俗資料館で展示されています。

608 どうどうがわすなどめ 堂々川砂留



登録種別：国登録有形文化財
所在地：神辺町西中条・湯野

見学情報 P WC



東中条の東山に源を発する堂々川は、全長4kmの溪流です。流域の山々は黒雲母花崗岩が風化した表土が流れやすい地質ですが、中世までは樹木の保水力で守られてきました。1619(元和5)年に福山藩が成立すると新しく城下町が作られ、建築資材や熱エネルギー源として薪の需要が増えます。また、1667(寛文7)年頃から始まったとされる松永塩田の経営にも膨大な薪を必要としたため、近郊の山々は荒廃していきました。1673(延宝元)年には堂々川上流の大原池の土手が豪雨で決壊し、下流の下御領村に多量の土砂を流し込んだため、63人もの死者があったと記録には残っています。このような災害が頻発したため、福山藩では領内で多くの砂防工事を実施し、砂留と呼ばれる堰堤を築きました。堂々川流域では現在16基の砂留が残されています。中でも、6番砂留は幅56m、高さ13.3mと県内最大級の規模で、1835(天保6)年に完成したと伝えられています。現在、堂々川水系の災害はなくなりましたが、6番砂留の背後の堆砂敷には堂々公園が作られ、多くの市民に親しまれています。

609 早田荒神社のムクノキ



指定種別：市天然記念物

所在地：神辺町川南

見学情報

JR福塩線神辺駅から約800m

ムクノキはニレ科の落葉高木で、早田荒神社の境内にあり、目通り周囲4.9m、樹高30mの県内第8番目の巨樹です。樹勢は旺盛で、ムクノキを神木とする例は全国各地で見られ、地元では、「早田の狐や狸が中条へ遊びに行った帰りの目印となるので、切ってはいけない」という言い伝えも残っています。

610 名越のアベマキ



指定種別：市天然記念物

所在地：神辺町平野

見学情報

個人所有

アベマキはブナ科コナラ属の落葉高木で、神辺町平野名越の民家の背後の山中にあり、目通り周囲4.0m、樹高20mの県内第5番目の巨樹です。推定樹齢約400年と伝えられ、昔この地に移り住んだ祖先によって「田の水が涸れないよう、また水害に遭わないよう」と雨乞い・雨止めをつかさどる水の守り神として貴船神社を祀り、神木として植えたものと伝えられています。

611 神辺城跡のアベマキ



指定種別：市天然記念物

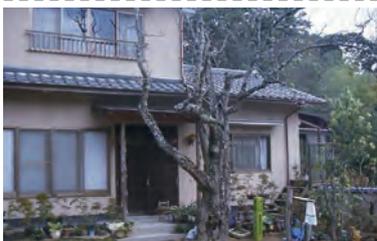
所在地：神辺町川北

見学情報

JR福塩線神辺駅から約1.5km

アベマキはブナ科コナラ属の落葉高木で、中世備後国の守護城であった神辺城跡のある黄葉山の山頂にあり、目通り周囲3m、樹高30mの巨樹です。樹勢は非常に旺盛で、地域のシンボルとして親しまれています。

612 友定のナツメ



指定種別：市天然記念物

所在地：神辺町三谷

見学情報

個人所有

ナツメはクロウメモドキ科ナツメ属の落葉高木で、果実は食用・薬用になります。目通り周囲1.9m、樹高8.0mの巨樹で、主な枝からは小枝が数多く分岐し伸びています。幹の下部に空洞があり樹勢に衰えがみられますが、ナツメとしては県内3番目の巨樹で、老木としても文化財的価値があります。

613 竹田のゲンジボタル及びその発生地



指定種別：県天然記念物

所在地：神辺町下竹田

見学情報

井原鉄道御領駅から東へ約1.3km

ゲンジボタルは鞘翅目(こうちゅうもく)ホタル科に属する昆虫で、体長は2cm前後と大きく、5月中旬から6月中旬にかけて飛び交います。狭間川流域のゲンジボタルは竹田ボタルと呼ばれ親しまれてきました。江戸時代に当世随一の漢詩人と称された菅茶山も「竹田夜帰」という七言絶句で、竹田を通して自宅に帰る時、狭間川の橋を渡っていると蛍が群れ飛んでいるので夜でも暗くないと称賛しています。地元では、ゲンジボタルの最盛期にはその乱れ飛ぶホタル合戦の様子は実に壮観だったと言われています。現在は河川改修や汚水によって激減していますが、地元の保護運動により回復が図られています。

614 石鎚山古墳群

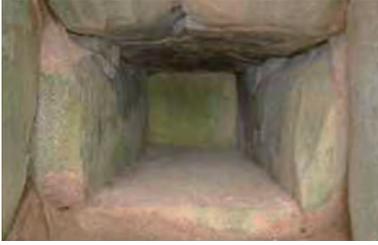


指定種別：県史跡

所在地：加茂町加茂が丘

第1号古墳(直径20m、高さ3m)は、墳丘の裾と中腹斜面に列石を巡らせ、2基の竪穴式石室があります。第2号古墳(直径16m、高さ3m)は、組合せ式木棺と、割竹式木棺の2基の土坑があります。第1号古墳からは、斜縁二神二獣鏡・玉類・鉄剣・鉄鏃・銅鏃、第2号古墳からは内行花文鏡の破片・刀子が出土しています。築造年代は第1号古墳が4世紀後半、第2号古墳が4世紀末から5世紀初頭頃と考えられます。出土遺物は県重要文化財に指定されています。

615 猪ノ子古墳



指定種別：県史跡
所在地：加茂町下加茂
(江木神社境内)

加茂川と百谷川の合流地点に築かれ、平野部を南に一望できる位置にあります。内部主体は切石の花崗岩を使用した南に開口する横口式石槨です。石槨部は長さ 2.8m、幅 1.1m、高さ 0.9mで、羨道部は長さ東 3.8m、幅 1.7m、現高 1.25mです。石材の接合部には組合せのための加工が施され、天井石と各壁との隙間には漆喰が残っており、数少ない古墳時代終末期の古墳として貴重です。

616 窪田次郎生家跡・粟根のエノキ



指定種別：市史跡・市天然記念物
所在地：加茂町粟根

見学情報 **P**

明治前期の啓蒙思想家、医療衛生活動家であった窪田次郎の生家跡で、庭園・石垣・土蔵を中心に代々栄えた庄屋屋敷の面影を残しています。敷地内には市天然記念物の粟根のエノキがあり、目通り周囲 4.4m、樹高 22m、根廻り周囲 6m、枝張り東西 24m・南北 27mと県内のエノキでは有数の大きさでしたが、2011(平成 23)年に枝の一部が折れてしまいました。

617 賀茂神社のケヤキ



指定種別：市天然記念物
所在地：加茂町芦原

見学情報 **P WC**

ケヤキはニレ科ケヤキ属の落葉高木で、根廻り 3.7m、樹高約 21m、地上 6mで 5 本に枝分かれしており、枝張りは東西 13.5m、南北 12mで、樹令 450 年といわれています。福山市内のケヤキでは常国寺のケヤキに次ぐ巨樹です。

618 姫谷焼窯跡



指定種別：県史跡
所在地：加茂町百谷

姫谷は九谷、伊万里とともに日本の初期色絵磁器の一つで、市右衛門によって開かれたと伝えられ、発掘調査では斜面を利用して築かれた窯跡 2基が確認されました。江戸時代前期末から中期前半の短期間に操業されたと考えられており、白磁・染付・鉄絵などの磁器や陶器・窯道具などが出土しています。窯の近くには陶工市右衛門の墓と伝えられる墓が祀られています。また、2016(平成28)年4月22日に「姫谷焼窯跡等出土資料」1,732点が福山市重要文化財(考古資料)に指定されました。この資料は、

発掘調査や採集によるもので、長年の調査研究や報告書により学術的な検討が加えられ、姫谷焼は1650年代の肥前窯の技術を導入しながら、17世紀後半の限られた期間に製作されたと考えられるようになりました。これらの資料は、姫谷焼の製作工程をはじめ製作年代や時代背景を解明し、伝世する姫谷焼製品の実像に迫る基礎資料として重要なものです。



619 菅町のシダレザクラ



指定種別：市天然記念物
所在地：加茂町北山
見学情報 **P**

シダレザクラはバラ科サクラ属の落葉高木で、枝がやわらかくしだれる桜の総称です。目通り周囲 2.4m、樹高 12mで樹齡 250 年と推定され、地上 3m付近で幹が二つに分かれています。枝張りは東西 16m、南北 18mで、花は小さく濃紅色で隔年にみごとな花をつけます。

620 福泉寺のカヤ



指定種別：県天然記念物
所在地：山野町山野
(福泉寺境内)

カヤはイチイ科カヤ属の常緑高木で、主幹がほとんどまっすぐで、地上約 9m付近で小枝を分ち、目通り周囲 3.4m、樹高約 26メートルの巨樹でしたが、1992(平成 4)年に落雷のため主幹上部 12mが折れました。

621 龍頭峡



指定種別：県名勝
所在地：山野町山野
見学情報 **P WC**

吉備高原の縁辺部を深く刻む浸食谷で、典型的な V 字谷として知られています。谷の奥部には四段の滝・龍頭の滝(落差 57m)があり、下流には小瀑・早瀬・淵が続き、美観を呈しています。これらの地形は、この一帯が千枚岩質の粘板岩を基盤に、頁岩・砂岩・赤色凝灰岩を挟み、その上を流紋岩で覆う地質構成となり、硬い流紋岩がはがれ、柔らかい粘板岩が次第に浸食されてできたものです。この景観に原始的様相を示す常緑広葉樹林が光彩を添えています。

622 かみはらだに 上原谷石灰岩巨大礫



指定種別：県天然記念物
所在地：山野町山野

この巨大礫は、赤色の凝灰岩質礫岩層（硯石層）の上に驚異的な規模の石灰岩礫（高さ30m・幅33m・奥行推定35m以上）があり、巨大礫の下は洞窟になって天井から鍾乳石が垂れ、その直下には石筍が成長しています。洞窟の中には式内社の多祁伊奈太岐佐耶布都（たけいなだきさやふつ）神社（岩屋権現）が祀られ、原始信仰の名残をとどめています。

623 ひがしのめん 東免のヒイラギ



指定種別：市天然記念物
所在地：山野町山野

ヒイラギはモクセイ科モクセイ属の常緑高木で、周囲が畑になった南向きの斜面にあり、根廻り2.7m、目通り周囲2.6mで、地上1.4m付近で幹が二つに分かれています。枝張り東西10.3m、南北10m、樹高は約10mに達する巨樹です。

624 光明寺のゴヨウマツ



指定種別：市天然記念物
所在地：山野町山野
[見学情報] P

ゴヨウマツはマツ科マツ属の常緑高木で、神社、仏閣、公園などに植えられ、盆栽としても栽培されています。目通り周囲2.2m、樹高15m、枝張り東西14.5m・南北2.2mで、推定樹齢300年と伝えられています。

625 おおばら 大原石塔群



指定種別：市史跡
所在地：山野町大原

108㎡の敷地内に宝篋印塔（ほうきょういんとう）24基とその残欠13点、五輪塔（ごりんとう）5基とその残欠76点余りで構成される石塔群です。形態が比較的整っており、これだけの規模と内容を持つ石塔群は市内にはあまり知られていません。石塔の年代は、宝篋印塔の形態からみて中世（鎌倉・室町時代）に位置づけられるものです。これまでの考証では、石に刻まれたわずかな文字などから、中世にこの一帯で活躍した宮氏一族や、近接する戸屋ヶ丸城（とやがまるじょう）跡に居城した大原氏などとの関連性が考察されており、山野地域の中世の様相を知る上で貴重な遺跡です。

626 葛原家住宅



指定種別：未指定
所在地：神辺町八尋

「ぎんぎんぎらぎら夕日が沈む」童謡「夕日」の作詞者である葛原しげる（1886～1961）は、安那郡八尋村（神辺町八尋）に生まれました。葛原家住宅はしげるの生家で、祖父葛原勾当の設計といわれ、江戸時代末期の1846（弘化3）年に完成しました。勾当は3歳のときに失明しましたが、琴・三味線の名手として活躍し、備後、備中、備前の地方に生田流箏曲を広めた人物です。またしげるは生涯に国内外の約400校の校歌と童謡約4000篇を作詞したことで知られていますが、これらは祖父勾当の影響が強かったものと考えられます。

627 福山市神辺歴史民俗資料館



所在地：神辺町川北6-1
[見学情報] P WC
JR 福塩線神辺駅から約1.8km
開館時間／9:00～17:00
休館日／月曜日（祝日の場合は翌日）・
年末年始、入館料無料
TEL・FAX(084) 963-2361

神辺城跡に連なるカカラ山に位置する資料館で、神辺町内から出土した考古資料や収集された歴史資料・民俗資料が3つの展示室に展示されており、神辺町の歴史を系統的に学習することができます。

628 菅茶山記念館



所在地：神辺町新湯野30-2
[見学情報] P WC
井原鉄道井原線湯野駅から約700m
開館時間／9:00～17:00
休館日／月曜日（祝日の場合は翌日）・
年末年始、入館料無料
TEL・FAX(084) 963-2361

神辺町出身の教育者、漢詩人、儒学者である菅茶山および関連文人の書画資料を常設展示しています。また、同町出身の箏曲家・葛原勾当および教育者、童謡作詩家・葛原しげるに関する資料や、日本画家で名誉市民の金島桂華、猪原大華をはじめとする絵画等も収蔵展示しています。

629 旧山野村役場（山野民俗資料館）



登録種別：国登録有形文化財
所在地：山野町山野
[見学情報] P WC
開館時間／10:00～16:30
開館日／毎週日曜日、年末年始休館、入館料無料

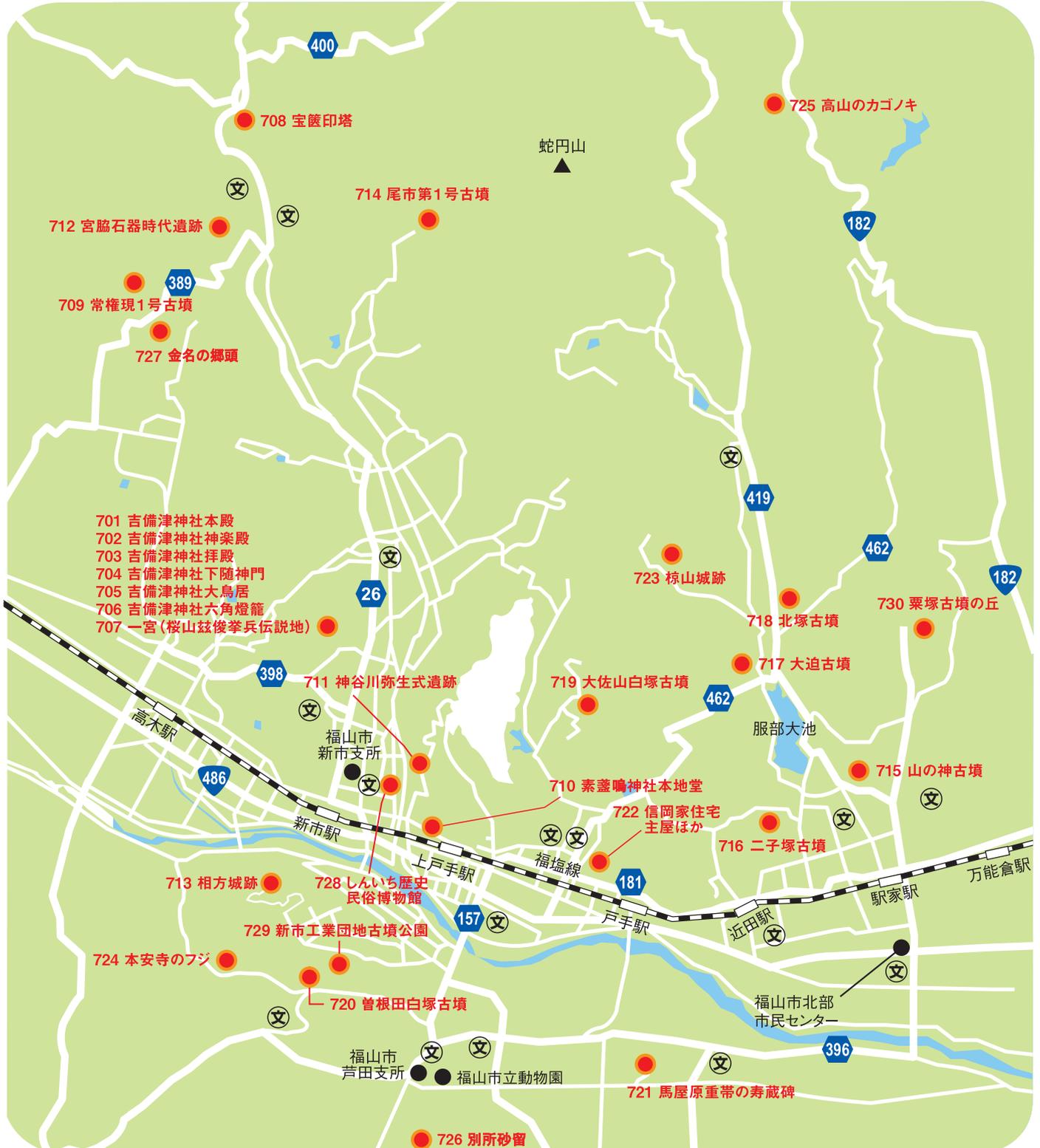
1892（明治25）年に建設された安那郡山野村役場を改修して資料館としたもので、山野町域で収集された民俗資料・歴史資料などを展示しています。和風の村役場建物として現存しているのは広島県東部においては唯一のものです。収蔵する山野民俗資料564点は市有形民俗文化財に指定されており、養蚕、林業、炭焼など山間部の暮らしを支えてきた道具が展示されています。

北西エリア

芦田川とその支流、神谷川、服部川などに沿った平野部から山間部に谷が切れ込み、北寄りには標高 500m 以上の山地になります。川沿いの平野部、丘陵には遺跡が集中しており、6世紀から7世紀にかけて、二子塚古墳をはじめとする後期古墳や大佐山白塚古墳、曾根田白塚古墳など特色ある終末期古墳が多くみられます。また、相方城跡や棕山城跡といった山城跡、吉備津神社の建造物なども特色があり、往時のにぎわいがうかがえます。



吉備津神社本殿



701 吉備津神社本殿



指定種別：国重要文化財
所在地：新市町宮内
(吉備津神社)
見学情報 **P WC**
JR福塩線新市駅より
約 1.8km

1648(慶安元)年に福山藩主・水野勝成によって建て替えられた、全国的にも有数の規模の本殿です。向拝三間、正面千鳥破風、軒唐破風造りの江戸初期の建築ですが、室町時代の風格と桃山彫刻を備えた優美な臺股(かえるまた)を備えています。高欄(こうらん)の擬宝珠(ぎほうじゅ)には「慶安元年」の刻銘があります。

702 吉備津神社神楽殿



指定種別：県重要文化財
本殿とともに1648(慶安元)年に建て替えられたものです。本殿の前方に拝殿、神楽殿、随神門などを一直線に建て並べる様式は「一遍上人絵伝」などから鎌倉時代後期には成立していたことがわかり、描かれている建物も現在の形式と同じで、慶安の再建時に以前の建物を忠実に復元したと考えられます。当初は檜皮葺であった屋根を銅板で覆った以外は再建時のままの姿です。

703・704・705・706

吉備津神社拝殿・下随神門・大鳥居・六角燈籠

指定種別：市重要文化財



拝殿は、本殿などと同時期に建て替えられたもので、棟通りの柱3本は、1376(永和2)年再建の本殿の角柱を2本ずつ継いで転用しています。軸部や小屋組等は当初材が良く残っています。下随神門は大型の八脚門で保存状態も良く、建築様式では18世紀中頃と考えられます。大鳥居は高さ5.8m、笠木の長さ6.25m、柱直径54cm、明神型鳥居で亀腹はなく、柱には「慶安元年」(1648)の銘があります。六角燈籠は高さ2.9m、火袋は六角形で、窓は日月を表しています。本殿の再興を記念して、水野勝成が1649(慶安2)年に寄進しました。吉備津神社境内にある記念銘をもつ石燈籠では最古のものです。

707 一宮(桜山慈俊拳兵伝説地) 指定種別：国史跡

南北朝内乱の始まりとなった1331(元弘元)年、鎌倉幕府の執権・北条高時を討とうとした後醍醐天皇は笠置山に籠って兵を募り、南朝方の楠木正成に呼応した桜山四郎入道慈俊は、一宮(吉備津神社)背後の桜山城を本拠として拳兵しました。一時は備後南部地域を従えませんが、形勢が悪化し、一族郎党とともに一宮に火を放って自害しました。この伝説地として一宮周辺が指定されています。

708 宝篋印塔



指定種別：県重要文化財
所在地：新市町金丸

金丸の厚山(こうやま)にあり、塔の基礎には、1380(康暦2)年に、□宗禅定門(□は摩滅)という法名をもつ人物の7周忌の供養のために建てたという刻銘があります。康暦は北朝方の年号で、この地域の支配者層にかかわる造立と考えられます。他に2基の宝篋印塔があり、3基の宝篋印塔が一定の規格をもって建てられたことがわかります。

709 つねごんげん 常権現第1号古墳



指定種別：市史跡
所在地：新市町常

直径11m、高さ5mの円墳で、埋葬施設は現存長5.8m、幅1.8m、高さ2.3mの無袖の横穴式石室です。墳丘背後には斜面を掘り込んだ周溝状の地形が観察できます。13基が確認されている権現古墳群のなかで最大の古墳で、この地域における6世紀後半の古墳の姿をよくとどめています。

710 すさのをしんじやほんちどう 素蓋鳴神社本地堂



指定種別：市重要文化財
所在地：新市町戸手
見学情報 **P WC**
JR福塩線上戸手駅より
約300m

現在は天神社の社殿ですが、もとは戸手祇園社の本地堂(観音堂)として建立されました。明治時代の廃仏毀釈の際、寺院建築の部分を撤去して神座を造り、本地堂としましたが、18世紀前半の三間堂の外観がよく残っています。1998(平成10)年に屋根の葺き替えや若干の修復を行い、外観は1748(寛延元)年の再建時の姿に修復されました。

711 かやがわ 神谷川弥生式遺跡



指定種別：県史跡
所在地：新市町新市
見学情報 **P**
JR福塩線上戸手駅より
約600m

神谷川と芦田川の合流地点の北東側の丘陵中腹に位置する弥生時代後期の集落遺跡です。1947(昭和22)年以来3回の発掘調査が実施され、出土した土器は「神谷川式土器」として、広島県東部の弥生時代後期土器の指標となっています。竪穴住居跡、炉跡、貯蔵穴などが見つかると、遺跡の下層からは縄文時代晩期の土器も出土しています。

712 宮脇石器時代遺跡



指定種別：県史跡
所在地：新市町常

神谷川右岸の丘陵端にある品治別神社境内にあり、縄文時代早期（10000～6000年前）の土器や細石器が出土した遺跡として知られていますが、土砂崩れなどで攪乱された可能性があります。縄文時代早期の遺物は、押型文土器、撚糸文土器、無文土器、石鏃などがあり、安山岩製の細石核などは、旧石器時代終末とそれ以降の過渡的な様相を示しています。

713 相方城跡



指定種別：県史跡
所在地：新市町相方
見学情報 **P**
JR福塩線上戸手駅より約4km

芦田川南岸に面する標高約190mの丘陵上に築かれた山城で、東西両側に曲輪群をもち、その間は幅約30mの空堀です。東西の曲輪群とも打込接（うちこみはぎ）の総石垣で築かれ、瓦葺の建物があったと考えられます。相方城は、在地の領主によって築かれた山城を戦国末期に毛利氏が直轄城として石垣を用いて整備したとみられ、近世城郭への過渡的様相を示す遺跡です。

714 尾市第1号古墳



指定種別：未指定
所在地：新市町常

3基の横口式石槨（せきかく）を3方に配置し、羨道を含めた埋葬施設の平面形が十字型になる国内唯一の古墳です。丘陵先端に単独で造られ、墳丘頂部の標高は196mです。墳丘の裾には石列が残っており、10.7mほどの八角形とみられますが、背後側の角は不明瞭です。石槨の石は平らに加工されて、表面にも漆喰が塗られていたようです。7世紀後半の築造と考えられます。

715 山の神古墳



指定種別：県史跡
所在地：駅家町法成寺
見学情報
JR福塩線駅家駅より1.5km

平野部の丘陵の先端に築造されており、前方後円墳と、直径12m、高さ4mの円墳の二通りの見方があります。埋葬施設は南に開口する片袖式の横穴式石室で、側壁は四方から持ち送りになっています。玄室の規模は長さ4.1m、幅2.9m、高さ3.3m、羨道の長さ2.25m、幅1.26m、高さ1.25mで市内の横穴式石室のなかでも古式と考えられます。

716 二子塚古墳



指定種別：国史跡
所在地：駅家町新山・中島
見学情報 **P WC**
JR福塩線近田駅より約1.2km



墳丘長さ68mの前方後円墳で、後円部は二段築成とみられます。埴輪や葺石はなく、墳丘のまわりには周溝が巡っており、東側から北側にかけては周溝の痕跡が観察できます。周溝を含む全長は73mで、県内第4位、後期古墳では最大です。後円部と前方部に両袖式の横穴式石室があり、後円部石室は全長14.9mで、墳丘の裾部から羨道の入口まで石積みの墓道が作られています。遺体を安置した玄室は、長さ6.8m、奥壁部分の幅2.1m、高さ3.3mで、兵庫県産の竜山石製組み合わせ式石棺が解体された状態で見つかりました。玄室の前に付けられた羨道は、長さ8.1m、玄室と羨道からは、双龍環頭大刀柄頭や馬具、須恵器、土師器など多くの副葬品が出土しました。前方部石室も全長12.6mと長大ですが多くの石材を失っており、埋め戻しています。出土した須恵器から、今から1400年前、6世紀末から7世紀初頭頃の築造と考えられ、畿内以西で最後に造られた前方後円墳と考えられています。

717 大迫古墳



指定種別：県史跡
所在地：駅家町新山

大迫金環塚とも呼ばれる後期古墳で、墳丘は削平されていますが、巨大な花崗岩を使った両袖式の横穴式石室です。玄室は長さ5.65m、幅2.5m、高さ2.7m、羨道は長さ6m、幅1.9m、高さ2.1mで県内屈指の巨大石室です。須恵器高杯、金環などが出土しています。

718 北塚古墳



指定種別：県史跡
所在地：駅家町服部
見学情報
JR福塩線駅家駅より約2.8km

丘陵の裾付近に位置し、埋葬施設の横口式石槨が露出しています。封土は完全に失われており、墳形は不明です。石槨は、底石、側石、蓋石を花崗岩の切石で組み合わせており、蓋石には家形石棺にみられる縄掛突起が、退化した形で一箇所だけ作られています。7世紀後半の終末期古墳として注目されます。

しらつか
719 大佐山白塚古墳



指定種別：県史跡
所在地：新市町戸手
見学情報
JR福塩線戸手駅より約2.8km

標高188mの大佐山山頂付近にあり、一辺約12mの方墳と考えられます。埋葬施設は切石を用いた横穴式石室で、玄室は長さ3.7m、羨道は約4m、幅は1.8mとほぼ一定です。玄室と羨道の間には立柱があり、鴨居状の石を架けて区切っています。築造は7世紀中頃と考えられ、同様の構造の石室は、大坊古墳（神辺町）や狼塚2号古墳（駅家町）にみられます。

そねだしらつか
720 曾根田白塚古墳



指定種別：県史跡
所在地：芦田町下有地

久田谷の北側丘陵の頂上付近に築造された7世紀中頃の終末期古墳で、周辺に古墳は確認されておらず、独立して存在しています。墳丘は直径約9mの円墳とみられており、埋葬施設は花崗岩切石を用いた横口式石槨ですが、石槨部の底石を欠いています。石材の隙間にはわずかに漆喰が残っています。

うまやはらしげよ しゅぞうひ
721 馬屋原重帯の寿蔵碑



指定種別：県史跡
所在地：駅家町向永谷
見学情報
個人墓地の敷地内

重帯は1762（宝暦2）年に向永谷村に生まれ、農業のかたわら学問にはげみ、自ら塾を開きました。備後一円の史書として著名な『西備名区』90巻（県重文）をはじめ、備南の年中行事や風俗を記した『風俗問状答書』などを独力で編著しました。碑は1831（天保2）年、重帯が70才の時に門人たちが業績をたたえて建立したものです。

722 信岡家住宅 主屋ほか



登録種別：国登録有形文化財
所在地：新市町戸手
見学情報
JR福塩線戸手駅より約500m
敷地内非公開

信岡家は代々庄屋を務め、用水の開削など地域の開発事業にも指導的な役割を果たしました。2008（平成20）年に、当地方の農家特有の形式を伝えている主屋をはじめ、東の蔵、西の蔵、炭小屋、茶室及び腰掛、井戸屋形、中門及び塀、長屋門の8件が国登録有形文化財として登録されました。

ひくやま
723 棕山城跡



指定種別：市史跡
所在地：駅家町助元・服部永谷

標高170mの棕山山頂を本丸とし、四方に延びる15の郭と4本の空堀で構成された中世の山城です。築城の時期は不明ですが、資料では服部を所領とした桑原氏の本城であったと記され、中世末には廃城となっています。土師質土器、青磁破片、古銭など室町時代後半の遺物が採集されています。

ほんあんじ
724 本安寺のフジ



指定種別：市天然記念物
所在地：芦田町
（本安寺境内）

フジはマメ科で、本州西部および四国、九州に自生しています。本安寺のフジは、約1mの範囲に大きな茎が5本出て、最大のもは根廻りが40cm以上です。花は藤色で房が長く、年によっては2mに達するものもあります。

725 高山のカゴノキ



指定種別：市天然記念物
所在地：駅家町服部永谷

カゴノキはクスノキ科の常緑高木で、樹皮が灰黒色となり、まだらに剥がれて白い鹿の子模様になります。高山のカゴノキは、地上2.3m付近で二つの幹に分かれ、さらに上に行くに従って次々枝分かれして巨樹となっています。

726 別所砂留



指定種別：未指定
所在地：芦田町福田

福田別所地区の砂留は昭和30年以降、山の樹木に埋もれて県の記録などにも記載はありませんでしたが、近年大小36基の砂留が見つかりました。土砂止形式や鍍積堰堤形式など様々な工法で築かれ、アーチ状堰堤や大型の物など江戸時代の土木技術の多様さを知ることができます。はっきりした築造年は不明ですが1722（享保7）年の記録には工事中の砂留の記録が、1764（宝暦14）年には13基存在していた記録があり、少なくともこの年までには13番までの砂留が完成していたと考えられています。

727 かなな ごとう 金名の郷頭



指定種別：未指定
所在地：新市町常
見学情報 WC・東屋

金名川に築かれた水流調節用堰（ダム）。橋を兼ねており、府中市本山境の皆米峠に至る。構造は石積みで、上流に向かって張り出すアーチ式ダムであり、導水部は横穴式石室のような持ち送り構造で天井石が架かります。1840(天保11)年、子年の大水を引き起こした豪雨では、上流の権現池（現：切池）の堤防が決壊し、直下の野原池を押し流して土石流となりましたが、郷頭で食い止めて下流の村を守ったとの言い伝えが残っています。

728 しんいち歴史民俗博物館



所在地：新市町新市 916
見学情報 P WC ♿
JR福塩線新市駅より約 900m、開館時間／9:00～17:00 休館日／月曜休館（祝日の場合、翌日休館）・12/28～1/3 休館 臨時有 入館無料（特別展有料の場合有）、☎0847-52-2992

福山市北西部の資料を中心に展示しており、宮脇遺跡、神谷川遺跡などの出土遺物も展示しています。備後紼の保存と活用にも取り組んでおり、染め体験もできます。（団体のみ、要問い合わせ）

729 新市工業団地古墳公園



所在地：新市町相方
見学情報 P
JR福塩線上戸手駅より約 2.5km

造成工事中に発見、発掘調査された後池第 17 号古墳を現地で保存整備した公園です。墳丘を盛りなおし、石室は失われた石を補って内部が見られる状態で復元しています。公園のモニュメントは、付近の潮崎山古墳出土の三角縁神獸鏡を模したものです。

730 あわづか 粟塚古墳の丘



所在地：駅家町法成寺（福山北部工業団地に隣接）
見学情報
JR福塩線駅家駅より約 3.5km

工業団地造成に伴って発掘調査された、狼塚2号古墳と正福寺裏山1号古墳を移築し、もともとこの地にあった粟塚古墳群とともに整備した公園です。正福寺裏山1号古墳は、竪穴式石室で連弧文縁四獣鏡が出土した4世紀の古墳です。狼塚2号古墳は、玄室と羨道の間に玄門と梁をもつ横穴式石室で、7世紀の築造と考えられます。

福山市内の無形民俗文化財

二上りおどり

盆踊りの一種と考えられ、江戸時代には旧盆の8月14日から3日間、三味線の「二上り」を基調に胡弓を配した地方（じかた）に合わせ、頭に折笠や頬かむりをし、手に団扇を持ち、思い思いの踊りで三々五々組を作って練り踊ったもので、唄がないのが特徴です。踊りの起源は定かではありませんが、江戸時代中期ごろに江戸詰め福山藩士によって江戸から伝えられたと考えられます。現在はふくやま夏祭り（8月13日～15日）で盛大に踊られています。

801 にあが 二上りおどり



指定種別：県無形民俗文化財
所在地：福山市丸之内

旧福山城下の二上り踊りは、1928（昭和3）年以降、団扇に代わって四ツ竹を手に持つようになりました。

802 神辺二上り踊り



指定種別：市無形民俗文化財
所在地：神辺町

神辺二上り踊りは、四ツ竹を持たず、団扇を持つことが特徴です。

ひんよう踊り

この踊りは「花踊り」とも「きりこ踊り」とも呼ばれ、旧沼隈郡内の津之郷・赤坂・神村・本郷・金江を中心に、旧盆に、氏神社で豊作や氏子の無病息災に感謝して踊られたものです。踊りの様式は、竹の先に御幣を付けた梵天を持つ人を中心に、キリコと呼ぶ上部を花で飾った灯籠を頭に載せた（あるいは手に持った）踊り子が外側を輪で囲み、太鼓の拍子と音頭に合わせ「ひんよー」「ひんよー」と囃して踊るものです。記録から、少なくとも江戸時代中期頃には盛んに踊られていたと推察できます。

803 津之郷惣堂ひんよう踊り



指定種別：市無形民俗文化財
所在地：津之郷町

津之郷惣堂神社の秋祭りで奉納されています。

804 ひんよう踊り



指定種別：県無形民俗文化財
所在地：本郷町

本郷八幡神社の祭礼で奉納されています。

727 かなな ごとう 金名の郷頭



指定種別：未指定
所在地：新市町常
見学情報 WC・東屋

金名川に築かれた水流調節用堰（ダム）。橋を兼ねており、府中市本山境の皆米峠に至る。構造は石積みで、上流に向かって張り出すアーチ式ダムであり、導水部は横穴式石室のような持ち送り構造で天井石が架かります。1840(天保11)年、子年の大水を引き起こした豪雨では、上流の権現池（現：切池）の堤防が決壊し、直下の野原池を押し流して土石流となりましたが、郷頭で食い止めて下流の村を守ったとの言い伝えが残っています。

728 しんいち歴史民俗博物館



所在地：新市町新市 916
見学情報 P WC ♿
JR福塩線新市駅より約 900m、開館時間／9:00～17:00 休館日／月曜休館（祝日の場合、翌日休館）・12/28～1/3 休館 臨時有 入館無料（特別展有料の場合有）、☎0847-52-2992

福山市北西部の資料を中心に展示しており、宮脇遺跡、神谷川遺跡などの出土遺物も展示しています。備後紼の保存と活用にも取り組んでおり、染め体験もできます。（団体のみ、要問い合わせ）

729 新市工業団地古墳公園



所在地：新市町相方
見学情報 P
JR福塩線上戸手駅より約 2.5km

造成工事中に発見、発掘調査された後池第 17 号古墳を現地で保存整備した公園です。墳丘を盛りなおし、石室は失われた石を補って内部が見られる状態で復元しています。公園のモニュメントは、付近の潮崎山古墳出土の三角縁神獸鏡を模したものです。

730 あわづか 粟塚古墳の丘



所在地：駅家町法成寺（福山北部工業団地に隣接）
見学情報
JR福塩線駅家駅より約 3.5km

工業団地造成に伴って発掘調査された、狼塚2号古墳と正福寺裏山1号古墳を移築し、もともとこの地にあった粟塚古墳群とともに整備した公園です。正福寺裏山1号古墳は、竪穴式石室で連弧文縁四獣鏡が出土した4世紀の古墳です。狼塚2号古墳は、玄室と羨道の間に玄門と梁をもつ横穴式石室で、7世紀の築造と考えられます。

福山市内の無形民俗文化財

二上りおどり

盆踊りの一種と考えられ、江戸時代には旧盆の8月14日から3日間、三味線の「二上り」を基調に胡弓を配した地方（じかた）に合わせ、頭に折笠や頬かむりをし、手に団扇を持ち、思い思いの踊りで三々五々組を作って練り踊ったもので、唄がないのが特徴です。踊りの起源は定かではありませんが、江戸時代中期ごろに江戸詰め福山藩士によって江戸から伝えられたと考えられます。現在はふくやま夏祭り（8月13日～15日）で盛大に踊られています。

801 にあが 二上りおどり



指定種別：県無形民俗文化財
所在地：福山市丸之内

旧福山城下の二上り踊りは、1928（昭和3）年以降、団扇に代わって四ツ竹を手に持つようになりました。

802 神辺二上り踊り



指定種別：市無形民俗文化財
所在地：神辺町

神辺二上り踊りは、四ツ竹を持たず、団扇を持つことが特徴です。

ひんよう踊り

この踊りは「花踊り」とも「きりこ踊り」とも呼ばれ、旧沼隈郡内の津之郷・赤坂・神村・本郷・金江を中心に、旧盆に、氏神社で豊作や氏子の無病息災に感謝して踊られたものです。踊りの様式は、竹の先に御幣を付けた梵天を持つ人を中心に、キリコと呼ぶ上部を花で飾った灯籠を頭に載せた（あるいは手に持った）踊り子が外側を輪で囲み、太鼓の拍子と音頭に合わせ「ひんよー」「ひんよー」と囃して踊るものです。記録から、少なくとも江戸時代中期頃には盛んに踊られていたと推察できます。

803 津之郷惣堂ひんよう踊り



指定種別：市無形民俗文化財
所在地：津之郷町

津之郷惣堂神社の秋祭りで奉納されています。

804 ひんよう踊り



指定種別：県無形民俗文化財
所在地：本郷町

本郷八幡神社の祭礼で奉納されています。

神楽

広島県は神楽が盛んですが、福山市内でも江戸時代中期には各地で神楽が奉納されていたことがわかっています。菅茶山の『御問状答書』（1818年）に記載された演目に符合するものがあり、江戸時代後期から現在に伝わる道具類も残っています。

805 備後田尻荒神神楽



指定種別：県無形民俗文化財
所在地：田尻町

田尻町本郷に所在する別所・勘定・良の三荒神社の境内に舞台を仮設し、式年にあたる寅歳・午歳・戌歳の晩秋に奉納されています。

806 本郷神楽



指定種別：県無形民俗文化財
所在地：本郷町

横町荒神社（現本郷八幡神社に遷座）の祭礼に、式年にあたる丑歳と未歳に奉納されています。

はねおどり

はねおどりは古くから旧沼隈郡一円と旧深安郡南部などで踊られたもので、その原型は農村行事の「虫送り」「雨乞い」に求めることができます。初代福山藩主の水野勝成が、この勇壮で活気に満ちた踊りを気に入り奨励したと伝えられます。音頭に合わせ飛び跳ねるように鉦や太鼓を打つ姿からこの名が付いています。

807 はねおどり



指定種別：県無形民俗文化財
所在地：田尻町

田尻町の八幡神社などの祭礼や盆の精霊祭りなどで踊られています。

808 はねおどり



指定種別：県無形民俗文化財
所在地：沼隈町

沼隈踊りとも呼ばれ、毎年8月第1土曜日に山南区の夏祭り（山南小学校）などで奉納されています。

809 蔵王のはねおどり



指定種別：県無形民俗文化財
所在地：蔵王町

毎年10月第3日曜日に蔵王八幡神社の秋季例大祭などで奉納されています。

810 御領はねおどり



指定種別：市無形民俗文化財
所在地：神辺町

上御領八幡神社の秋祭りなどで奉納されています。

その他

811 お手火神事



指定種別：市無形民俗文化財
所在地：鞆町

鞆祇園社の祭礼に先立って行う祓いの行事で、長さ3m以上、重さ約150kgの大きな3つの手火が沼名前神社の階段を登ります。参拝者は手火を小手火に移して家に持ち帰り、家内安全・五穀豊穡を祈り、大手火の木片は厄払いの護符とされます。毎年7月第2土曜日に沼名前神社で行われます。

812 お弓神事



指定種別：市無形民俗文化財
所在地：鞆町

鞆の八幡神社の祭礼で、年頭にあたり悪鬼を射払う破魔弓の変化したものと考えられます。旧鞆7町の氏子が輪番で行っており、古式にのっとった儀式が行われたあと、大弓主・小弓主が交互に3回矢を射ります。毎年2月第2土・日曜日に沼名前神社で行われます。

813 能登原とんど



指定種別：市無形民俗文化財
所在地：沼隈町

もとは左義長ともよばれ、能登原では10m近いとんどに飾りをつけ、町内を練り歩きます。市内では練り歩くこととは昭和30年代には姿を消しており、市内唯一の例として貴重です。毎年1月第2日曜日に能登原小学校で行われます。

814 柞磨の継獅子舞



指定種別：市無形民俗文化財
所在地：芦田町

大獅子あるいは百足獅子といわれる系統の獅子舞で、福山ではこの地域のみで行われています。伝えによると1644（正保元）年柞磨八幡神社を遷宮した時、氏がこの舞を奉納したのが始まりとされます。胴布とよばれる獅子幕の外に数十人、獅子の両側には花笠をつけた稚児が太鼓と掛け声に合わせて銅拍子を鳴らす大規模で勇壮な獅子舞で、2年に一度、秋祭りに奉納されています。

815 鞆の浦鯛しばり網漁法



指定種別：市無形民俗文化財
所在地：福山市鞆町

鯛しばり網漁法は、春先に産卵のため鞆の浦沖に集まる鯛を捕獲する方法として考案された漁法のひとつです。江戸時代より行われていた瀬戸内海を代表する漁法で、長い歴史の中で変遷を遂げ、現在では希少となりましたが、瀬戸内海域の漁業の様相を示す貴重な漁法であり、名勝鞆の浦を代表する風物詩となっています。毎年5月上旬から約1ヶ月間、鞆の山酔島を中心とした海域で開催。観光鯛網として一般に公開されています。